

官報號外

明治三十八年二月二十二日 水曜日

印 刷 局

○第二十一回衆議院議事速記録第十九號

明治三十八年二月二十一日(火曜日)午後一時十三分開議	第一讀會
議事日程 第十八號 明治三十八年二月二十一日	第一讀會
午後一時開議	第一讀會
第一 日本興業銀行法中改正法律案(政府提出貴)	第一讀會
第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉	第一讀會
第三 鐵道抵當法案(政府提出貴)	第一讀會
第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉	第一讀會
第五 外國裁判所ノ嘱託ニ因ル共助法案(政府提出)	第一讀會
第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉	第一讀會
第七 明治二十九年法律第六十三號ノ有效期 間ニ關スル法律案(政府提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第八 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料 法案(政府提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第九 戰時補助船舶獎勵ニ關スル法律案(貴族院提出)	第一讀會
第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 (五名提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十一 衆議院議員選舉法中改正法律案(渡邊 提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十二 衆議院議員選舉法中改正法律案(渡邊 五名提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十三 府縣制中改正法律案(植場平外) (一提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十四 府縣制中改正法律案(小河源) (一提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十五 傳染病豫防法中改正法律案(山根正次外) (七名提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十六 登錄稅法中改正法律案(横井時雄外) (二名提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十七 畜牛結核病豫防法中改正法律案(宮本 外五名提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十八 農會法改正法律案(藤金作外二) (十三名提出)	第一讀會ノ續(委員長)
第十九 商法中改正法律案(神崎東藏外) (八名提出)	第一讀會
第二十 郡制中改正法律案(板倉中外) (一名提出)	第一讀會
第二十一 府縣制中改正法律案(高橋安爾外) (一名提出)	第一讀會
第二十二 民事訴訟法中改正法律案(宮古啓三郎) (外二名提出)	第一讀會

○議長(松田正久君) 開會致シマス、諸般ノ報告ヲ致シマス
(書記朗讀)

政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セラレタリ
登錄稅法中改正法律案
貴族院ヨリ左ノ政府提出案ヲ送付セラレタリ
工場抵當法案
鑄業抵當法案
議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セラレタリ
民事訴訟法中改正法律案
煙草專賣法附則中改正法律案
提出者 宮 古 啓三郎君 神崎 東 藏君 富島 暢夫君
裏君

貴族院ハ本院送付ニ係ル政府提出地租條例中改正法律案不動產登記法中改正法律案罹災救助基金法中改正法律案北海道罹災救助基金法案所得稅法中改正法律案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒アリタリ

委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
北海道拓殖銀行法中改正法律案

委員長 改野 耕三君
擔保附社債信託法案

委員長 鳩山 和夫君

所得稅免除ニ關スル法律案

委員長 漆 昌 嶽君

所得稅免除ニ關スル法律案

委員長 池田 惟貞君

所得稅免除ニ關スル法律案

委員長 奥野 市次郎君

所得稅免除ニ關スル法律案

委員長 中林 友信君

所得稅免除ニ關スル法律案

委員長 亨君

會計法中改正法律案

委員長 宮崎 榮治君 理事 小川 平吉君
居留民國法案 委員長 江藤 哲藏君 理事 木下 謙次郎君

○議長(松田正久君) 諸君ニ御詰リテ致シマスガ、刑ノ執行猶豫及免除ニ關スル法律案ノ委員會ヲ開キマス。

(「異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス、是ヨリ議事日程ニ付イテ會議ヲ開キマス、議事日程第一、日本興業銀行中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省キマス。

第一 日本興業銀行法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

日本興業銀行法中改正法律案

(小字ハ貴族院修正)

日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第八條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ主務大臣ニ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條第四號中「地方債證券、社債券及株券ニ關スル」ヲ削リ左ノ二號ヲ加

第五 手形ノ割引
第六 法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第五ノ手形ハ割引依頼人ヨリ國債證券、地方債證券、社債券又ハ

第十一条ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於テ營ム業務ニ付テハ此ノ限ニ在ラ

第十二條 日本興業銀行ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金現在高、割引手形現在高及其实所有ニ係ル國債證券、

地方債證券、社債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス
(第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ)

第十二條ノ二 日本興業銀行ハ外國ニ於ケル公益事業ニ對シ資金ノ需要アル場合ニ限り主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ本法第十二条、第十五条及商法第二百條ノ規定ニ依ラスシテ債券ヲ發行スルコトヲ得

前項公益事業ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四条ノ二 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行スル場合ニハ商法第百九十九條ノ規定ヲ適用セス

(政府委員阪谷芳郎君登壇)
○政府委員(阪谷芳郎君) 本案ハ此度ノ戰爭ニ就キマシテ、内地ノ資本が軍費ノ上

ニ向キマシクニ付キマシテハ、自カラ此資本ヲ補フノ方法ヲ必要ト致シマスル、又清韓兩國ニ於ケルコロノ企業ニ對シマシテ、永期ノ貸付ヲ必要トル事業ニ對シマシテ、相當ナル金融機關ヲ必要ト致シマスル、ソレカラ金銀產出ヲ獎勵致シマスガタメニ、金銀ノ

鐵山ニ低利ノ資金ヲ供給スルノ必要ガル、是等ノコトカラ致シマシテ、別ニ抵當法案

並ニ信託法案及外國ニ於テ營ム銀行事業ニ關スル所ノ法案モ出テ居リマスルカ、此興業法案モソレニヤハリ關聯致シマス、願クハ速ニ御協賛ヲ與ヘラレントヲ希望致シマス

○議長(松田正久君) 發言者ガナケレバ、議事日程ノ第一、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ移リマス

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ先ニ外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律案ト云フ委員會が設ケアリマス、其委員ニ付託セラレントヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 恵松君ヨリ、本案ハ外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律案ノ委員ニ付託致シタインコトヲ動議デアリマスガ、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ其通決定致シマス、議事日程第三鐵道抵當法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第三 鐵道抵當法案(政府提出貴族院送付)

日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第九條第四號中「地方債證券、社債券及株券ニ關スル」ヲ削リ左ノ二號ヲ加

第五 手形ノ割引
第六 法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第五ノ手形ハ割引依頼人ヨリ國債證券、地方債證券、社債券又ハ

第十一条ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於テ營ム業務ニ付テハ此ノ限ニ在ラ

第十二條 日本興業銀行ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金現在高、割引手形現在高及其实所有ニ係ル國債證券、

地方債證券、社債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス
(第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ)

第十二條ノ二 日本興業銀行ハ外國ニ於ケル公益事業ニ對シ資金ノ需要アル場合ニ限り主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ本法第十二条、第十五条及商法第二百條ノ規定ニ依ラスシテ債券ヲ發行スルコトヲ得

前項公益事業ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四条ノ二 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行スル場合ニハ商法第百九十九條ノ規定ヲ適用セス

(政府委員阪谷芳郎君登壇)
○政府委員(阪谷芳郎君) 本案ハ此度ノ戰爭ニ就キマシテ、内地ノ資本が軍費ノ上

ニ向キマシクニ付キマシテハ、自カラ此資本ヲ補フノ方法ヲ必要ト致シマスル、又清韓兩

國ニ於ケルコロノ企業ニ對シマシテ、永期ノ貸付ヲ必要トル事業ニ對シマシテ、相當

ナル金融機關ヲ必要ト致シマスル、ソレカラ金銀產出ヲ獎勵致シマスガタメニ、金銀ノ

六 保線ニ要スル材料及器具機械

七 車輛及之ニ屬スル器具機械

八 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四 四 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五 五 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

六 六 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

七 七 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

八 八 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

九 九 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十 十 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十一 十一 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十二 十二 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十三 十三 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十四 十四 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十五 十五 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十六 十六 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十七 十七 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十八 十八 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

十九 十九 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十 二十 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十一 二十一 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十二 二十二 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十三 二十三 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十四 二十四 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十五 二十五 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十六 二十六 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十七 二十七 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十八 二十八 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

二十九 二十九 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十 三十 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十一 三十一 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十二 三十二 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十三 三十三 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十四 三十四 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十五 三十五 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十六 三十六 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十七 三十七 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十八 三十八 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

三十九 三十九 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十 四十 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十一 四十一 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十二 四十二 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十三 四十三 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十四 四十四 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十五 四十五 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十六 四十六 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十七 四十七 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十八 四十八 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

四十九 四十九 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十 五十 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十一 五十一 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十二 五十二 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十三 五十三 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十四 五十四 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十五 五十五 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十六 五十六 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十七 五十七 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十八 五十八 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

五十九 五十九 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

六十 六十 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

六十一 六十一 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

六十二 六十二 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

六十三 六十三 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上

ニ存スル地上權、登記シタル質借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ

鐵道財團ニ屬スルモノハ所有權以外ノ物權、登記シタル賃借權又ハ差押
ト爲ス

假差押若ハ假處分ノ目的タルコトヲ得ス
鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ 所有權以外ノ物權、登記シタル 貸借權又

八差押、假差押若八假處分ノ目的タルトキ〇八會社八鐵道八
賃借權ノ目的タルトキ

ヲ得ス但シ不動産ニ關スル権利ニ付其ノ登記ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五回 指當權ノ謀定又ノ變更ハ総額金四分ノ一以上ノ拠辽アリタル後顧因ツア

款變更ト同一方法ノ決議ヲ經主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效

六 蘇 鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ノ額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂還額

ヲ超ニルコトヲ得ス但シ舊償還ノ爲ニスル場合ニ於テ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス
七條 會社カ鐵道財團ヲ及ナムトスレトキハ之三種類スヘキ不動産ニ

ル 権利ニ付鐵道財團ノ豫定登記ヲ受クヘシ

鐵道財團ノ豫定登記ハ其ノ財團ニ屬スヘキ不動產ニ關スル權利ノ登記アリ
土地又ハ建物ノ登記用紙中田當量事項欄ニ鐵道財團ニ屬スヘキモノト

シテ豫定セラレタル旨及申請書受付ノ年月日竝受付番號ヲ記載スルニ依

リテ之ヲ爲ス
第四條第三項ノ場合ニ於テハ會社ハ豫定登記ヲ受クルヨトヲ得ス

鐵道財團ノ豫定登記アリタル不動產ニ關スル權利ハ其ノ登記ノ抹

消セラレサル間ハクヲ譲渡スコトヲ得ス

手續ニ於テハ鐵道財團ノ豫定登記ノ抹消セラレサル間ハ競落ヲ許ス決定

不動産二關スル權利ニ付鐵道財團ノ豫定登記アリタル後其ノ權利

ニ付爲シタル登記ハ主務官廳ニ於テ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキハ其

前項ノ規定ニ依リ競賣申立ノ記入カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ執行裁判ノ效力失フ

所へ利害關係人ノ申立ニ因リ競賣手續ヲ取消スヘシ

金 **達** **財** **團** **ノ** **豫** **定** **金** **計** **後** **一** **簡** **月** **内** **ニ** **抵** **當** **權** **ノ** **設** **定** **可** **及** **認** **可** **ノ** **學** **諸** **ナ** **キ** **ト**

ルトキハ鐵道財團ノ豫定登記ハ其ノ效力ヲ失フ

前項の場合は、被害關係の鐵道財團の登記の取消し申請入る
コトヲ得

前四條ノ規定ハ不動產ニ關スル權利ヲ新ニ鐵道財團ニ屬セシム

ハ陽台ニ之ヲ使用ノ但シ不動産ニ關フル構造ヲ新ニ鐵道敷設ニ關セシム
ルニ付務官廳ノ認可ヲ要サル場合ニテハ鐵道財團ノ株主登記ト第
二ニ付各務官廳ノ認可ヲ要サル場合ニテハ鐵道財團ノ株主登記ト第

官報號外

キハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條 抵當權ハ債權成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第十五條 抵當權ノ得喪若ハ變更又ハ鐵道財團ノ所有權ノ移轉ハ登錄ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條 数箇ノ債權ヲ擔保スル爲同一ノ鐵道財團ニ付抵當權ヲ設定シメルトキハ其ノ抵當權ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第十七條 抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第十八條 抵當權者ハ鐵道財團ニ付抵當權ヲ設定シメルトキハ其ノ抵當權ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第十九條 抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第二十條 抵當權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ全部ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十一條 抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノノ譲渡、貸付、滅失又ハ毀損ニ因リテ會社カ受クヘキ金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 會社カ鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當ト爲シ、鐵道財團ニ關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ、其ノ線路ヲ變更レ又ハ其ノ線路ノ全部若ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスキ。ハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

抵當權者カ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ主務官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ此ノ裁定ハ終局トス

抵當權者カ外國ニ住所ヲ有スル場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ四箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第二十三條 會社カ鐵道財團ニ關スル工事方法ノ變更又ハ鐵道財團ニ屬スル物ノ處分ニ付認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ變更又ハ處分カ鐵道財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ虞アリト認ムルトキハ主務官廳ハ會社ヲレテ抵當權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告セシムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 線路又ハ工事方法ノ變更ニ付新ニ鐵道財團ニ屬スヘキ不動產ニ關スル權利アルトキハ會社ハ其ノ工事竣工書ニ其ノ權利ノ登記アル土地又ハ建物ノ登記簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二十五條 免許ノ失效又ハ取消ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ免許ノ失效又ハ取消ノ日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ免許ハ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル迄仍存續スルモノト看做ス

第二十六條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準シテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ或鐵道財團ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ満ツル迄之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第二十七條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登錄ニ其ノ代位ヲ附記スルコトヲ得

第二十八條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムルカ爲之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 政府カ鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クトモ一箇年前ニ豫告スヘシ

第三十條 第二章 登錄
二十一年又ハ據置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クトモ一箇年前ニ豫告スヘシ

第三十一條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十二條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十三條 鐵道財團ニ關スル登錄ヲ爲ス爲主務官廳ニ鐵道抵當原簿ヲ備フ

第三十四條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十五條 鐵道財團ニ關スル不動產ニ關スル權利ノ登記アル土地又ハ建物ノ登記簿ノ謄本ヲ前項第二號及第三號ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

第三十六條 第二號及第三號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ登錄申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十七條 鐵道財團ニ關スル登錄中請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

第三十八條 鐵道抵當原簿ハ一箇ノ鐵道財團ニ付一用紙ヲ設ク

第三十九條 鐵道財團目錄

第四十條 鐵道財團ニ關スル不動產ニ關スル權利ノ登記アル土地又ハ建物ノ登記簿ノ謄本ヲ前項第二號及第三號ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

第四十一條 第二號及第三號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ登錄申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十二條 第四項ノ規定ハ第一項第三號ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第四十三條 第四項ノ規定ハ第一項第三號ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十三條 抵當權設定ノ登録ハ鐵道抵當原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

第十二條 第二項第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項

七 免許ニ附シタル條件

三 抵當權ヲ設定シタルコト

四 抵當權設定認可ノ年月日

五 登録ノ年月日

第十二條 第二項第一號及前項第二號ニ掲ケタル事項ハ第二以下ノ順位ノ抵當權ニ付テハ之ヲ登録スルコトヲ要セス

第三十四條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十五條 同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其ノ各鐵道財團ノ用紙ニ他ノ鐵道財團ヲ表示シ之ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

他ノ鐵道財團ニ關スル變更又ハ消滅ノ登録カ前項ノ記載ヲ變更スルコトヲ要スルニ至リタルトキハ其ノ記載ニ變更ヲ附記シ他ノ鐵道財團ニ關スル消滅ノ登録カ前項ノ記載ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ記載ヲ抹消スヘシ

第三十六條 鐵道抵當原簿ニ抵當權ノ設定ヲ登録シタルトキハ鐵道財團目錄ニ爲シタル記載ハ登録ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十七條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

變更又ハ消滅カ不動產ニ關スル權利ニ付生シタル場合ニ於テハ前項ノ届書ニハ其ノ權利ノ登記アル土地又ハ建物ノ登記簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

變更又ハ消滅カ線路又ハ工事方法ノ變更ニ因リテ生シタル場合ニ於テハ會社ハ工事竣工書ニ添附シタル登記簿ノ謄本ヲ前項ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

前項ノ届書ハ鐵道財團目錄ニ編綴スルニ依リテ前條ノ效力ヲ生ス

第十二條 第四項ノ規定ハ第二項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十八條 一用紙ノ抵當權ノ登録カ全部抹消セラレタルトキハ主務官廳ハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ。其ノ旨及其ノ年月日ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ新ナル管轄登記所ニノミ通知スヘシ

一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登録シタルトキ

二 不動產ニ關スル權利カ新ニ鐵道財團ニ屬シタルトキ

三 鐵道財團ニ屬スル不動產ニ關スル權利カ之ニ屬セサルニ至リタルトキ

四 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

三十七 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動產ニ關スル權利ノ登記アル土地又ハ建物ノ登記用紙中相當區事項欄ニ鐵道財團ニ屬シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ鐵道財團ノ豫定登記後ニ權利ニ付爲シタル登記ヲ抹消スヘシ

三十八 在チス登記官吏カ前條第三號又ハ第四號ヲ通知ヲ受ケタルトキハ鐵道財團ニ屬スル不動產ニ關スル權利ノ登記アル土地又ハ建物ノ登記用紙中相當區事項欄ニ鐵道財團ニ屬セサルニ至リタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ前項ニ依リテ爲シタル登記及鐵道財團ノ豫定登記ヲ抹消スヘシ

三十九 第四十二條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求シ又ハ手數料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得手數料ノ外郵送料ヲ納付レテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

四十 第四十三條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

四十一條 何人ト雖鐵道抵當原簿及鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

四十二條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

四十三條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

四十四條 抵當權者ハ自己ノ選擇ニ依リ前項ニ掲ケタル一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

四十五條 強制執行ハ債務者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所

四十六 第四十九條 左ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ。其ノ旨及其ノ年月日ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ新ナル管轄登記所ニノミ通知スヘシ

四十七 第五十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

四十八 第五十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

四十九 第五十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十 第五十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十一 第五十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十二 第五十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十三 第五十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十四 第五十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十五 第五十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十六 第五十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十七 第六十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十八 第六十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

五十九 第六十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十 第六十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十一 第六十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十二 第六十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十三 第六十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十四 第六十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十五 第六十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十六 第六十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十七 第七十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十八 第七十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

六十九 第七十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十 第七十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十一 第七十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十二 第七十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十三 第七十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十四 第七十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十五 第七十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十六 第七十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十七 第八十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十八 第八十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

七十九 第八十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十 第八十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十一 第八十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十二 第八十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十三 第八十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十四 第八十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十五 第八十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十六 第八十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十七 第九十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十八 第九十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

八十九 第九十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十 第九十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十一 第九十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十二 第九十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十三 第九十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十四 第九十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十五 第九十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十六 第九十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十七 第一百條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十八 第一百零一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

九十九 第一百零二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百 第一百零三条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零一 第一百零四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零二 第一百零五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零三 第一百零六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零四 第一百零七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零五 第一百零八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零六 第一百零九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零七 第一百一十条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零八 第一百一一条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百零九 第一百一十二条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一零 第一百一十三条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一一 第一百一十四条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一二 第一百一十五条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一三 第一百一十六条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一四 第一百一十七条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一五 第一百一十八条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一六 第一百一十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一七 第一百二十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一八 第一百二十一条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百一九 第一百二十二条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十 第一百二十三条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十一 第一百二十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十二 第一百二十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十三 第一百二十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十四 第一百二十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十五 第一百二十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十六 第一百二十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十七 第一百三十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十八 第一百三十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百二十九 第一百三十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十 第一百三十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十一 第一百三十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十二 第一百三十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十三 第一百三十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十四 第一百三十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十五 第一百三十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十六 第一百三十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十七 第一百四十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十八 第一百四十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百三十九 第一百四十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十 第一百四十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十一 第一百四十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十二 第一百四十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十三 第一百四十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十四 第一百四十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十五 第一百四十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十六 第一百四十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十七 第一百五十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十八 第一百五十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百四十九 第一百五十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十 第一百五十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十一 第一百五十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十二 第一百五十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十三 第一百五十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十四 第一百五十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十五 第一百五十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十六 第一百五十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十七 第一百六十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十八 第一百六十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百五十九 第一百六十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十 第一百六十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十一 第一百六十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十二 第一百六十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十三 第一百六十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十四 第一百六十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十五 第一百六十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十六 第一百六十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十七 第一百七十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十八 第一百七十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百六十九 第一百七十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十 第一百七十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十一 第一百七十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十二 第一百七十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十三 第一百七十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十四 第一百七十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十五 第一百七十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十六 第一百七十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十七 第一百八十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十八 第一百八十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百七十九 第一百八十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十 第一百八十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十一 第一百八十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十二 第一百八十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十三 第一百八十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十四 第一百八十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十五 第一百八十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十六 第一百八十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十七 第一百九十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十八 第一百九十一條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百八十九 第一百九十二條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九〇 第一百九十三條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九一 第一百九十四條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九二 第一百九十五條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九三 第一百九十六條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九四 第一百九十七條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九五 第一百九十八條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九六 第一百九十九條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九七 第一百二十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九八 第一百二十一条 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

一百九九 第一百二十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

二〇〇 第一百二十條 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

ノ管轄ニ專屬ス
四十六條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ
一 債務者タル會社ノ商號及其ノ本店所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由

四 年月日
五 裁判所
申立書ニハ執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス

四十七條 強制競賣ノ申立ハ競落期日迄ハ競買人ノ同意アル場合ニ限り之ヲ取下クルコトヲ得
四十八條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第46條第二項第一號乃至第四號ニ掲タル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スヘシ
四十九條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ主務官廳ニ囑託スヘシ

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ
四十七

第五十條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ粗稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ債務者タル有會社ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出スヘキ旨ヲ公告スヘシ
五十一條 裁判所ハ鑑定人ヲ選定シ競賣ニ付スヘキ鐵道財團ヲ評價セシメ其ノ評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲スヘシ
五十二條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時
三 最低競賣價額
四 競落期日ノ場所及日時
五 執行記錄ヲ閱覽シ得ヘキ場所
五十三條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非シテ競賣ニ加入スルニハ競賣ニ付セ

ラレタル鐵道ノ營業ヲ目的トシ會社ヲ發起セムトスル者七人以上合同スルコトヲ要ス
前項ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カ之ニ加ハルモノニ付テハ其ノ債權額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限り之ヲ適用セス

五十二

第五十五條 競賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ
五十三

第五十六條 裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ
競落ト爲ルヘキ同價額ノ入札二箇以上アルトキハ裁判所ハ同價額ノ競買人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ
再度ノ入札ヲ爲スモ仍同價額ノ入札アルトキハ裁判所ハ直ニ抽籤ヲ以テ最高價競買人ヲ定ムヘシ
五十四

第五十七條 競賣ニ加入スルコトヲ得サル者ノ爲シタル入札ハ無効トス
五十五

第五十八條 競賣期日ニ於テ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ
前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ最低競賣價額ヲ低減スルコトヲ得

五十六

第五十九條 入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス
入札ハ其ノ入札ヲ爲シタル競買人以外ノ者ニ競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキ、競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ
五十七

第六十條 裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ
五十八

第六十一條 裁判所ハ競買ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示
二 競賣申立人ノ表示
三 入札及開札ノ日時

五十九

總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコト、許スヘキ入札ナキコト若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキコト並第

五十三

二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

五十九

裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、

五十九

(六)

抵當權者及競買人ニ競落ノ許可ニ付異議ヲ爲サシムヘシ
第六十三條 強制競賣申立ノ取下若ハ強制執行ノ取消アリタル場合又ハ第

四十八條乃至第五十七條若ハ第六十條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限り債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十五條 競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十三條ニ掲ケタル理由アル場合ニ限り競落ヲ許ス決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲サル者ハ競落ヲ許サル理由ナキ場合ニ限り競落ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十六條 裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十七條 競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ牒本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第六十八條 競落代金ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ本免許ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ本免許ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第六十九條 競落代金ハ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競落人ニ、競落人カ第五十三條第一項ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ其ノ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス抵當權ハ前項ニ依リ鐵道財團ニ關スル權利カ移轉シタルトキニ消滅ス

第七十條 本免許狀ノ下付ナキトキ、第七十六條ノ期間内ニ本免許ノ申請ナキトキ又ハ第六十八條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定シテ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定カ取消サレタルトキハ本免許ハ取消サレタルモノトス

競落人ハ新競賣ニ加入スルコトヲ得ス且新競賣ニ於ケル競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ少ナキトキハ其ノ不足額及手續ノ費用ヲ賠償スヘレ

第七十一條 裁判所ハ競落代金ノ中ヨリ順次ニ競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ

抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者

公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 第四十九條第二項ニ依リテ爲シタル登錄及抵當權ノ登錄ヲ抹消スルコト

二 競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ競落人又ハ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社カ取得シタル不動產ニ關スル權利ノ登記ヲ囑託スルコト

第七十二條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

第七十三條 裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者ノ同意アル場合ニ限り競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ簡簡ノモノトシテ競賣ニ付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十四條 前條ノ競賣ニ關シテハ第五十一條、第五十二條、第五十五條乃至第六十九條、第七十條第一項、第三項、第七十一條及第七十二條ノ規定ヲ準用ス

競買人ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

第七十五條 鐵道財團ノ競落人カ第五十三條第一項ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ發起人ト爲リテ會社ヲ設立スヘシ

第七十六條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ本免許ヲ申請スヘシ

第七十七條 左ニ掲タル書類ヲ添附スヘシ

一 定款

二 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ検査役カ裁判所ニ爲シタル報告書ノ謄本及裁判所カ検査役ノ報告ヲ聽キ爲シタル決定ノ謄

三 株主ヲ募集シタルトキハ株式申込證ノ謄本、發起人、取締役、監査役又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事及決議ノ要領

第七十八條 競落人タル會社カ本免許ヲ申請スルニハ定款ノ變更ト同一方法ノ決議ニ依ルヘシ

本免許ノ申請ハ定款變更ノ決議認可ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第七十九條 主務官廳ハ前三條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ本免許狀ヲ下付スヘシ

第八十條 本免許ハ會社カ競落代金ヲ支拂ロタルトキニ其ノ效力ヲ生ス

本免許カ效力ヲ生シタルトキハ會社ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス

第八十一條 強制管理ニ付テハ第四十六條、第四十八條乃至第五十條ノ規定ヲ準用ス

七八十九條 前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ主務官廳ハ一人又ハ數本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第八十二條 強制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄

第八十三條 前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ主務官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ強制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

商事會社ハ管理人タルコトヲ得

第八十四條 主務官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

主務官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

主務官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十五條 主務官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道

財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ

第八十六條 鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ

鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

管理人ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡

ヲ求ムルコトヲ得

鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十七條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支辨スヘシ

第八十八條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘシ

第八十九條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ヲ負フ

第九十條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第九十一條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ主務官廳ニ差出スヘシ

主務官廳ハ前項計算報告書ノ謄本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ主務官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トス

第九十二條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス

管理人カ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ主務官廳及裁判所ニ通知スヘシ

第九十三條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辦濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スヘシ

強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十四條 前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外強制管理ノ取消ニ關シテハ第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第九十五條 左ノ場合ニ於テハ取締役、發起人又ハ管理人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

六十九
一 本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ

二 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

○議長（松田正久君） 何デス
○岡田治衛武君（三十五番） 質問ガアリマス——遞信大臣、内務大臣、司法大臣
ニ、委員選舉前ニ御尋ねシタリ、本案ハ鐵道抵當法案トシテ出テ居クテ、此法案ノ中ニハ
電氣鐵道ハナイト、電氣鐵道ハ鐵道ニアラザルモノト見ア、本案ニハ御捕入ガナイノデア
ルカ、或ハ電氣鐵道ハ鐵道ト看做シテ居ル、既ニ通行稅ノ如キモ、苛重ノ稅ヲヤハリ電
氣鐵道カラモ取ツテ居ルカラ、鐵道ト看做スノデアルカ、或ハ斯ノ如キ鐵道ノ利益ノ問題
ハ、別ニ法案ヲ提出スル意見デアルカ、若シ別段ニ之ヲ提出シタナラバ、會期切迫デ時
日ガナイヤウニ思フカ、其提出ノ時期ハ何レアルカ、何時提出スルノデアルカ、之ニ付イ
テ一應正確ノ御答辯ヲ得タイ（「委員會ニシタ方ガ宜イ」ト呼フ者アリ）委員會ハ委員
會、茲ハ茲デアル

○政府委員一木喜德郎君登壇）
○政府委員（一木喜德郎君） 唯今ノ御質問ハ、政府ハ軌道條例ニ據ルトコロノ
電氣鐵道ヲ鐵道ト見ルヤ否ヤト云フノガ、一ツアリマスガ、此法律案ニ於キマシテ、鐵
道ト申シテ居ルノハ、私設鐵道法ニ依ル鐵道ヲ申スノデ、第一條ニアリマス通、私設鐵
道株式會社ヲ——此法案ニ於ケル命令ヲ申スノデ、其會社ニ此法ヲ適用スル考ナノデ
アリマス、ソレデ軌道條例ニ依ルモノハ別段ノ法ニ依ツテ居ルモノデ、此鐵道抵當法中ニ
規定スルコトハ餘程困難デアリテ、物が違ヒマス、之ヲ支配スル法律が違フノアリマス、
故ニ軌道條例ニ據ルモノハ、此中ニ包含セシメナカツタノデアリマス、尙軌道ノ方ニ關シテ
モ、同ジャウナ制度ヲ立アルカト云フ御尋アリマスガ、此事ハ今回ハ調査が出來テ居ラ
ヌノデ、尙今後精々調査ヲ致ス考デ居リマス、是ダケ御答致シマス
○岡田治衛武君（三十五番） 唯今ノ御説明ニ依ルト、尙精々調査ヲスルト云フ漠然
タル御答デアルガ、調査ヲシテ別段ノ法案ヲ提出スルヤ否ヤト伺ヒタ、提出ニナレバ、其
時期ハ何時デアルカ、ソレヲ承リタイ

（政府委員一木喜德郎君登壇）
○政府委員（一木喜德郎君） 唯今ノ御問ハ、調査ノ結果ニ依リマスノデ、此事ダケ
ヲ御答致シマス

○議長（松田正久君） 恒松君動議ノ如ク十八名ノ委員ヲ、議長が指名シテ御異議
アリマセヌカ

（「異議ナシ」と呼フ者アリ）
○議長（松田正久君） 御異議がナケレバ、其通決シマス——此場合ニ於テ諸君ニ御
諮詢リテ致シマスカ、先刻御報道致シタ如ク、政府ヨリ工場抵當法案ト、鑛業抵當法案
トヲ提出サレマシタガ、未ダ定規ノ日數ヲ經マセケレドモ、會期が追々切迫致シマスニ
依テ、茲ニ於テ讀事日程ヲ變更シ、右兩案ノ第一讀會ヲ開イテハ、如何カト考ヘマス
モ、成ルベク速ニ御審議ノ上、御協賛アランコトヲ希望致シマス

○議長（松田正久君） 御發議ガナケレバ、議事日程第四ニ移リ、特別委員ノ選舉ヲ
致シマス

○岡田治衛武君（三十五番） 議長——議長——議長——

第四 右議案ノ審査ヲ付託スベキ別員ノ選舉

○恆松隆慶君（百五十九番） 本案ハ十八名ノ委員ヲ、議長指名ニ願ヒマス

（賛成タクト呼フ者アリ）

○岡田治衛武君（三十五番） 議長——

○岡田治衛武君（三十五番） 議長——議長——

工場抵當法案（政府提出貴族院送付）

（小字及
—貴族院修正）

第一條 本法ニ於テ工場ト稱スルハ營業ノ爲物品ノ製造若ハ加工又ハ印刷

若ハ撮影ノ目的ニ使用スル場所ヲ謂フ
營業ノ爲電氣又ハ瓦斯ノ供給ノ目的ニ使用スル場所ハ之ヲ工場ト看做ス
第二條 工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地ノ上ニ設定シタル抵當權ハ建物

ヲ除クノ外其ノ土地ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物及其ノ土地ニ備附

ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ自己ノ所有ニ屬スルモノニ及フ但シ

設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者

カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ工場ノ所有者カ工場ニ屬スル建物ノ上ニ規定シタル抵當權

ニ之ヲ準用ス

第三條 工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記

。其ノ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ其ノ目的タル物カ

ヲ申請スル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ノ目

錄ヲ提出スヘシ

第二十二條 第二項、第三十五條及第三十八條乃至第四十二條ノ規定ハ前

項ノ目錄ニ之ヲ準用ス

第四條 第二條第一項但書ノ定アルトキハ抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ

之ヲ記載スヘシ

第五條 抵當權ハ工場ノ所有者カ土地若ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シ

タル物又ハ土地若ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ヲ第三取得

者ニ引渡シタル後ト雖其ノ物ニ付之ヲ行フコトヲ得但シ第三取得者カ善
意ナリシトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ民法第一百九十二條乃至第一百九十四條ノ適用ヲ妨ゲス

土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、

器具其ノ他ノ物ノ備附ヲ止メタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

工場ノ所有者カ抵當權者ノ爲差押、假差押若ハ假處分アル前ニ於テ正當

ナル事由ニ因リ前二項ノ同意ヲ求メタルトキハ抵當權者ハ其ノ同意ヲ拒

ムコトヲ得ス

第七條 抵當權ノ目的タル土地又ハ建物ノ差押、假差押又ハ假處分ハ第二

條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ニ及フ

第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ハ土地又ハ建物ト共ニスルニ

非サレハ差押、假差押又ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八條 工場ノ所有者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲一箇又ハ數箇ノ工場ニ付工

場財團ヲ設タルコトヲ得數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スルトキ亦同シ

工場財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ財團ニ屬スルコトヲ得ス

工場財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第十條 工場財團ノ所有權保存ノ登記ハ其ノ登記後一箇月内ニ抵當權設定
ノ登記ヲ受ケサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 工場財團ハ左ニ掲タルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スル

コトヲ得

一 工作所、事務所、倉庫其ノ他ノ建設物
二 機械、器具、船舶、牛馬、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物

三 土地及地上權
四 土地又ハ水ノ使用權

五 貸貸人ノ承諾アルトキハ物ノ貸借權

六 工業所有權

第十二條 工場ニ屬スル土地又ハ建物ニシテ未登記ノモノアルトキハ工場財團ヲ設タル前其ノ所有權保存ノ登記ヲ受クヘシ

第十三條 他人ニ屬スル物權若ハ貸借ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノハ工場財團ニ屬セシムルコトヲ得ス

第十四條 工場財團ハ之ヲ一箇ノ不動產ト看做ス

工場財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ物權、貸借、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ貨貸ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ賃貸スルハ此ノ限ニ在ラス

得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ賃貸スルハ此ノ限ニ在ラス

財團ヨリ分離シタルトキハ抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス

第六條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 第二條、民法第三百七十一條、第三百八十八條及第三百八十九條ノ規定ハ土地又ハ建物カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

民法第二百八十一條ノ規定ハ要役地カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 工場財團ノ登記ニ付テハ工場所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動產登記法第八條第二項ノ規定ハ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カ

リ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 各登記所ニ工場財團登記簿ヲ備フ

第十九條 工場財團登記簿ハ一箇ノ工場財團ニ付一用紙ヲ備フ

第二十條 工場財團登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分す表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ

登記番號欄ニハ各財團ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ工場財團ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示
番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス
乙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス
順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第二十一條 登記ノ申請書ニハ不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 工場ノ名稱及位置
二 主ダル營業所

三 營業ノ種類

第二十二條 工場財團ニ付所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動產登記法第三十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外工場財團目錄ヲ提出スヘシ

前項ノ目錄ニハ工場財團ヲ組成スルモノノ表示ヲ掲ケ申請人之署名、捺印スヘシ

第二十三條 所有權保存ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ財團ニ屬スヘキモノニシテ登記アルモノニ付テハ職權ヲ以テ其ノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬スヘキモノトシテ其ノ財團ニ付所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

前項ニ掲ケタルモノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ヲ遲滯ナク管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲シ其ノ登記簿ノ謄本ヲ記載スルコトヲ要セス

前三項ノ規定ハ工業所有權カ工場財團ニ屬スヘキ場合ニハ抹消ニ係ル事項ヲ通知ハ之ヲ特許局ニ爲スヘシ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ官報ヲ以テ工場財團ニ屬スヘキ動產ニ付シ物權若ハ貸借ニ因ル權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月以上三箇月以下トス

前項ノ公告ハ所有權保存ノ登記ノ申請カ期間ノ満了前ニ却下セラレタルトキハ遲滯ナク之ヲ取消スヘシ

第二十五條 前條第一項ノ期間内ニ權利ノ申出ナキトキハ物權又ハ貸借ニ付シ物權若ハ貸借ニ因ル權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月以上三箇月以下トス

前項ノ公告ハ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレタルトキ又ハ其ノ登記ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 第二十四條第一項ノ期間内ニ權利ノ申出アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所有權保存ノ登記ノ申請人ニ通知スヘシ

第二十七條 所有權保存ノ登記ノ申請ハ不動產登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外左ノ場合ニ於テ之ヲ却下スヘシ

一 登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登記ニ關スル原簿ノ謄本ニ依リ工場財團ニ關スル原簿ノ謄本ト抵觸スルトキ

二 押、假差押若ハ假處分ノ目的タルコト明白ナルトキ

三 屬スヘキモノカ他人ニ屬スル物權若ハ賃借權ノ目的タルコト又ハ差

押、假差押若ハ假處分ノ目的タルコト明白ナルトキ

一 登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登記ニ關スル原簿ノ謄本ト抵觸スルトキ

二 工場財團目錄ニ掲ケタルモノノ表示カ登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登記ノ謄本ト抵觸スルトキ

三 工場財團ニ屬スヘキ動產ニ關シ物權若ハ賃借ニ因ル權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者カ其ノ權利ヲ申出テタル場合ニ於テ遅クモ第二十四條第一項ノ期間滿了後一週間内ニ其ノ申出ノ取消アラサルトキ又ハ其ノ申出ノ理由ナキコトノ證明アラサルトキ

第二十八條 ^{○登記官吏カ} 所有權保存ノ登記ノ申請ヲ却下シタルトキハ第二十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

他ノ登記所又ハ特許局ニ所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨ヲ通知シタル場合ニ於テハ其ノ申請ヲ却下シタル旨ヲ遅滯ナク通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所又ハ特許局ハ第二十三條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

第二十九條 工場財團ニ屬スヘキモノニシテ登記又ハ登錄アルモノハ第二十三條ノ記載アリタル後ハ之ヲ譲渡シ又ハ所有權以外ノ物權若ハ貸借ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十條 第二十三條ノ記載アリタル後競賣申立ノ登記アリタル場合ニ於テハ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ登記カ效力ヲ失ハサル間ハ競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 第二十三條ノ記載アリタル後ニ爲シタル差押、假差押若ハ假處分ノ登記又ハ先取特權ノ保存ノ登記ハ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ差押、假差押又ハ假處分ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ差押、假差押又ハ假處分ノ命令ヲ取消スヘシ

第三十三條 ^{○權利} 工場財團ニ屬スヘキ動產ハ第二十四條第一項ノ公告アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ物權若ハ貸借ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二十四條第一項ノ公告アリタル後差押、假差押又ハ假處分アリタル場合ニ於テ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十四條 ^{○登記官吏カ} 所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ財團ニ屬シタルモノ

ノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬シタル旨ヲ記載スヘシ
第二十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記

第三十五條 所有權保存ノ登記アリタルトキハ工場財團目錄ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第三十六條 工場財團ノ抵當權設定ノ登記ノ申請ハ、不動產登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外第十條ノ期間ヲ経過シタル場合ニ於テ之ヲ却下スベシ

第三十七條 ○登記官吏更迭。抵當權設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十一條ノ規定ニ依リ、效力ヲ失ヒタル登記ヲ抹消スハシ。

第二十三條第一項及第三項ハ規定ハ前項ハ場合ニ之ヲ適用ス但ミテ言語名
勝本ノ送付ヲ要セス

ハ過半六四工場賊團目録ノ記載ノ變更ノ登記ヲ申請スヘシ
前項ノ登記ノ申請書ニハ抵當權者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘ
同意
代ル

第三十九條 工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シ又ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ變更シタルモノ又ハ

新ニ属シタルモノノ表示ヲ掲ケタル目録ヲ提出スヘシ
前項ノ規定ニ依リ提出シタル目録ハ工場附屬目録ニ編綴シ登記官吏其ノ
綴目ニ契印スヘシ

第四十條 工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ前ノ目録中其ノモノノ表示ノ側ニ其ノモノニ變更ヲシタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十一條 新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請
アリタルトキハ前ノ目録ノ末尾ニ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタル
旨、申請書受付ノ年月日受付番號ヲ記載スヘシ

第四十二條 工場財團ニ屬シタルモノカ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ目録中其ノ登記ノ目的タル
滅失

モノノ表示ノ側ニ其ノモノカ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ其ノモノノ表示ヲ朱抹スヘシ
滅失

第四十三條 第二十三條乃至第三十四條及第三十七條ノ規定ハ新ニ他ノモ
ノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 工場財團ニ屬シタルモノニシテ登記アルモノカ 消失 又ハ財

團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノモ
ノノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ旨ヲ記載シ第二十三條及第三十四條
ノ記載ヲ抹消スヘシ

前項ニ掲ケタルモノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノモノカ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨ヲ遲滯ナク管轄登記所ニ通知スヘシ前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲スヘシ前三項ノ規定ハ工場財團ニ屬シタル工業所有權カ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス但シ通知ハ之ヲ特許局ニ爲スヘシ第四十五條 工場財團ノ差押、假差押又ハ假處分ハ工場所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

民事訴訟法第二十六條ノ規定ハ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地内ニ在ル減失

民事訴訟法第二十六條ノ規定ハ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ工場財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣又ハ入札ニ付スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得
第四十七條 民事訴訟法第七百條又ハ競賣法第三十三條ノ規定ニ依リ登記抵當權者

元競賣又ハ入札ニ付ノヘキ旨を命フルニト元得
第四十七條 民事訴訟法第七百條又ハ競賣法第三十三條ノ規定ニ依リ登記
ノ囁託ヲ爲スヘキ場合ニ於テ工場財團ノ抵當權カ競落ニ因リ消滅シタル
トキハ裁判所ハ同時ニ工場財團ニ屬シタル土地、建物、船舶又ハ工業所有
權ニ付第二十三条及第三十四条、已減、未消及競落ハ、取締ノレ體制

トキハ裁判所ハ同時ニ工場財團ニ屬シタル土地 建物 船舶又ハ工業所有
權ニ付第二十三條及第三十四條ノ記載ノ抹消及競落人ノ取得シタル權利
ノ登記又ハ登錄ヲ管轄登記所又ハ特許局ニ嘱託スヘシ
第四十八條 工場財團登記簿ハ所有權保存ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルト

第四十八條 工場財團登記簿ハ所有權保存ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ抵當權ノ登記カ全部抹消セラレタルトキハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十九條 工場ノ所有者又ハ法律ニ依リニ代リテ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ讓渡ノ目的ヲ以テ土地若ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物又ハ土地若ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ニシテ抵

當權ノ目的タルモノヲ他人ニ引渡シ又ハ引渡サシメタルトキハ十五日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス
物ヲ第三者

工場ノ所有者又ハ法律ニ依リ之ニ代リテ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ第二十三條ノ記載又ハ第二十四條第一項ノ公告アリタル後工場財團ニ屬スヘキ物又ハ之ニ屬スル物ニシテ前項ニ掲ケタルモノヲ讓渡シ又ハ

他人ヲシテ讓渡セシメタルトキ亦前項ニ同シ
前項
本條ニ規定シタル行爲ト惟削去ニ至るアルモノハ削去ニ達フ

第五十條 工場ノ所有者カ抵當權ノ目的ト爲シタル物又ハ抵當權ノ目的
損
損

ト爲シタル工場財團ニ屬スル物ヲ毀壊シ又ハ他人ヲシテ毀壊セシメタルトキハ刑法第四百十七條乃至第四百二十三條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム 附 則

〔司法大臣波多野敬直君登壇〕

貢金ヲ要スル場合ニ、肝腎ノ機械器具ヲ抵當ニ爲シ得ル 規定、ガナイタメ、資金ノ融通

上ニ不便ヲ感シテ居リマシタガ、此法案ハ第一三機械器具等ヲ抵當ニスル規定ヲ設ケ、

進シテハ工場財團ヲ設ケ、機械器具建物土地一切ヲ一纏メニシテ、抵當ニシ得ル規定ヲ設ケタイ趣意デゴザイマス、ドウカ此法案ハ目下最モ必要ノ法案ト認メマスカラ、遂ニ御協賛アランコトヲ望ミマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ十八名ノ委員議長指名ヲ願ヒマス

〔賛成〕ノ聲起ル

○議長(松田正久君) 御發議がナケレバ、本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○議長(松田正久君) 本案ハ十八名ノ委員議長指名ヲ願ヒマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ、本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

鑛業抵當法案(政府提出貴族院送付)

(小字及一
貴族院停止)

第一讀會

鑛業抵當法

第一條 採掘權者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鑛業財團ヲ設クルコトヲ得

第二條 鑛業財團ハ左ニ掲タルモノニシテ鑛業ニ關シ。採掘權者ニ屬スルモノノラ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

一 鑛業權

及作物

二 土地又ハ水ノ使用權

三 土地及地上權及土地ノ使用權

四 賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權

五 工作物

六 機械、器具、車輛、船舶、牛馬其ノ他ノ附屬物

第三條 鑛業財團ニ付テハ工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條 採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ直ニ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

採掘權ハ前項ノ期間内又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的

範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ハ採掘權取消ノ登錄アリ

タルトキニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

○錯誤ニ因リ鑛業ノ出願カ許可セラレタル場合又ハ鑛業カ公益ヲ害スルモ
ノト認メラレタル場合ニ於ケル採掘權ノ取消ニ關シテハ
鑛業法第三十八條第一項又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル
前二項ノ規定ハ。鑛業法第三十八條第一項又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル
採掘權取消ノ場合ニ之ヲ適用セス

第五條 前條ノ規定ハ採掘權者カ廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 競賣ニ付セラレタル鑛業ヲ目的トシ帝國法律ニ從ヒ會社ヲ設立セムトスル者カ競賣ニ加入スルトキハ競買ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ執行裁判所ニ申出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第七條 鑛業財團ノ競落人カ前條第一項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ會社ヲ設立シ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ

第八條 前條ノ競落人ハ會社設立ノ日ヨリ一週間以内ニ競落代金ヲ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第九條 前條ノ規定ニ依リ競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ニ移轉ス

第十條 第七條ノ期間内ニ會社設立ノ届出ナキトキ又ハ第八條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ鑛業財團ノ再競賣ヲ命スヘシ

前項ノ再競賣ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ヲ準用ス

タル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ニ移轉ス

第十一條 工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團ニ關シ之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○恵松隆慶君(百五十九番) 是ハ前ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 御發議がナケレバ、本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(松田正久君) 然ラバ本案ハ議長指名ノ十八名ノ委員ニ…

○恵松隆慶君(百五十九番) 前ノ委員——工場抵當法案ノ委員ニ付託イタシタイ

○議長(松田正久君) ソレテハ本案ハ前ノ工場抵當法案ト同一委員ニ付託スルコト

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 御異議がナケレバ其通決シマス、次ハ議事日程第五、外國裁判所ノ嘱託ニ因ル共助法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス——石井政

府委員

第五 外國裁判所ノ嘱託ニ因ル共助法案(政府提出) 第一讀會

第一條 裁判所ハ外國裁判所ノ嘱託ニ因リ民事及刑事ノ訴訟事件ニ關スル書類ノ送達及證據調ニ付法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第二條 受託事項カ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ受託裁判所ハ嘱託ヲ

管轄裁判所ニ移送スヘシ
受託事項ハ日本ノ法律ニ依リ之ヲ施行スヘシ

第四條 嘴託ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ拒絶スヘシ
日本ノ法律ニ依レハ受託事項カ其ノ施行ヲ許スヘキモノニ非サルトキ

二 受託事項カ受託裁判所ノ管轄ニ屬セサル場合ニ於テ第二條ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキ

三 相互條件ノ存セサルトキ

(政府委員石井菊次郎君登壇)

○政府委員(石井菊次郎君) 本案ハ帝國裁判所ト外國裁判所トノ間ニ於キマシテ、相互ノ條件ノ下ニ司法上ノ協議ヲ爲スコトヲ得ルト云フコトヲ規定スルモノデゴザイマス、諸君ノ御存シノ如ク、現行ノ制度ニ於キマシテハ、外國ノ裁判所が、其繼續シタル事件ニ關シテ、本邦ニ於テ在留スル所ノ在留者ニ對シテ送達ヲ行ヒ、若クハ本邦ニ

於テ證據調ヲ爲スト云フ必要ノアル場合ニ於キマシテ、外國裁判所ヨリ帝國裁判所ニセメノデ、然ラバ此外國裁判所ハ斯ル場合ニ於テ、自國ノ公使領事、若クハ一己人ト云フモノニ嘱託ヲシテ、其目的ヲ達スルコトガ出來ルカト申シマスルト、帝國ノ領土内ニ於テ、司法權ノ一部ヲ構成スルコトヲ外國ノ官吏ヲシテ爲サシメルト云フコトヲ、外國ノ官吏ヲ用致シマセヌ、此ニ於テ外國裁判所ハ日本ニ在留スル者ニ對シ、送達若クハ證據調ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ、現行ノ制度ニ於テ、如何トモスルコトガ出來マセヌノデアリマス、諸君ノ御存シノ如ク、我民事訴訟法第百五十二條、同一百八十一條ニ於キマシテ、外國ニ於テ爲スベキ送達、若クハ證據調ハ其國官廳又ハ其國ノ——外國官廳、又ハ其國ニ駐在スル帝國公使、若クハ領事ニ嘱託シテ之ヲ爲サシムト云フ規定ハゴザイマスル、併ナガラ國際間ノ司法上ノ共助ト云フ事項ハ、殆ド總アノ場合ニ於テ、相

互ノ條件ヲ以テ、相互ト云フ主義ヲ以テ、必要ノ條件トシテ居リマスカラ、既ニ帝國ニ於テ外國ノ裁判所ノ嘱託ニ應ズルコトモ出來ズ、外國ノ公使若クハ、領事ヲシテ其嘱託ニ應ゼシムコトモ許サナイト云フ當然ノ結果ト致シマシテ、此民事訴訟法ノ百五十三條二百八十一條モ實行ヲ期スルコトガ出來ナイ有様ニナツテ居ルノデゴザイマス、交通ガ非常ニ頻繁ニナツテ來マシテ、彼我ノ關係が複雜ニナツタ今日ニ於テ、之がダメニ不便ヲ感スルコロノ帝國ノ裁判所、又ハ利害關係者ト云フモノハ、非常ニ多イノデゴザイマス、此缺點ヲ補フコトヲ以テ、政府ハ必要ト認マシテ、本案ヲ提出シタ次第ゴザイマス、御協賛ヲ願ヒマス

○森田卓爾君(二百四十一番) 質問ガアリマス、是ハ外務省ノ方ヨリカ、司法省ノ方ニ御尋ラシマス、此法案テ第一條ニ裁判所トアルノハ、是ハ日本ノ裁判所ト云フ意味アラウト、四條ヲ參照シテ考ヘマスル、是ハ御尋デゴザイマセヌガ、サウ解釋スルノ外ナ、諸外國ノ證據調其他ノ嘱託ハ、帝國裁判所ガ之ヲ助ケテヤラナケレバナラヌ、其效

必要ハアラウト思ヒマスルガ、唯今ノトコロデヘ帝國裁判所ガ在外ノ日本人若クハ在外ノ外人ヲ證人トシテ取調ベルトキノ法文ハゴザイマセヌガ、此法案デ以テ共助ト云フコトヲ頻リニ仰セラレマスガ、日本ノ裁判所ハ外國人ノ嘱託ヲ受ケテ、外國ノ人ニ便利ヲ與フルコトが出來マセウガ、日本ノ裁判所ガ證據調ニ因シテ居ル外人乃至在外ノ日本人ノ取調ヲナシ得ラレル御考デゴザイマセウカ、ソレハ別ニ法文ヲ設ケテ、此法案デハソレハ出ナリ御考デゴザイマセウカ

(政府委員石井菊次郎君登壇)

○政府委員(石井菊次郎君) 御答ヲ致シマス、第一ノ御問ノ裁判所ト云フノハ帝國裁判所デゴザイマス、ソレカラ其次ノ外國ニ居ル日本人ニ對スル證據調ト云フノハ、此第四條ノ第三項ニゴザイマシテ「相互條件ノ存セサルトキ」ト云フノハ、拒絶スルノ理由ノ一ソニナツテ居リマスガ、固ヨリ此法律ニ依リテ外國ト協議ヲ致シマスノハ、此外國ニ於テ又其共助ノ法律ガアリテ、相互ノ此利益ヲ交換スルコトが出來ルト云フ場合ニ限リマス、而モ其相互ノ共助ヲ致シマスルニ付キマシテハ、固ヨリ外交上ノ手續ヲ經マシテ協定ヲ遂ゲタ上ノコトデゴザイマス

○森田卓爾君(二百四十一番) 唯今ノ第四條ノ三項ニ、「相互條件ノ存セサルトキ」ト云フコトヲ、チヤト裏カラ見ルト、唯今ノ仰シャリヤウニ考ヘラレマス、所ガ相互條件

ガ今日ニ存シテ居ル相互條件デヤラレル御考デゴザイマセウカ、外交上ノ手續デ相互條件ヲ捨ヘタナラバ、其結果ニ在外日本人ヲ取調フルコトヲ得ラル、コトニ、此法律ダケデ往クカ、是カラ先相互通件ヲ作ラナケレバ往カヌト云フノデアリマスカ、ソレヲ明カニ……

(政府委員石井菊次郎君登壇)

○政府委員(石井菊次郎君) 固ヨリ向フノ——コチラノ希望シテ居ル外國ノ政府ニ於テ、相互ノ條件ニ依リテ共助ヲ與ヘルト云フコトヲ確答ガゴザイマシテ、又其確答ヲ與フルトコロノ本ナルトコロノ國法ガアルト云フコトヲ確カメタ上デ、政府ハ協定ヲスル皆デゴザイマス、其協定スルノハ既ニ現存シテ居ル場合デアリマス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ、議事日程ノ第六右議案ノ審査ヲ付託スベ

キ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ其通決定致シマス——議事日程第七、明治二十九年法律第六十三號ノ有效期間ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(報告)

(大岡育造君登壇)

第七 明治二十九年法律第六十三號ノ有効期間ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(報告)

○大岡育造君(百六十四番) 明治二十九年法律第六十九號ノ有效期間ニ關スル法律案、委員會ノ經過及結果ヲ御報告申シマス、本案ハ御承知ノ通、屢延期ヲネテ參タル所謂六十三號ノ法律ヲ以テ、臺灣ニ特別ナル統治ヲ爲スコトヲ許シタモノデアルノアリマス、唯今審查ニ掛リマシタ法律案ハ、至ツテ簡單ナモノデ「明治二十九年法律第六十三號」同法第六條ノ期限後ニ於テモ平和克復ノ翌年末日ニテ尙其效

力ヲ有ス「ソレダケガ全文ニアリマス、」即チ來年ノ二月一日ヲ以テ、期限ノ満了致シマス
ルトコロノ法案ヲバ、此法案ニ依テ繼續ラスルノデアル、其繼續ハ平和克復ノ翌年末日
マテ、ト云フ期限ニ切ルコトデゴザイマス、テ抑、此法案ガ昨年ノ——昨年デハナ、前三
年ノ議會ニ於テ延期セラレマスルトキニ當ラズ、重ネテ此儘ニハ延期ハ求メマイ、此期限ノ
結了シタルトキニハ、別ニ法案ヲ定メテ、更ニ協賛ヲ經ヘント云フ、政府ノ言明ガアツテ、
此ニ來テ居ルノデアリマス、然ルニ今回政府ガ斯ノ如キ法案ヲ出シマシタノハ、政府ニ於
テ臺灣當局者ノ手許ニ別段ナル法案ヲ作シテ内閣マテハ差出シテ居ルサウデアリマスル
ガ、總督ガ恰モ滿洲ニ出陣中ニアツテ、未ダ十分此案ニ關スル審議ガ遂グラレテ居ラナ
シ、今度ハ重ネテ延期ヲ、所謂二年三年又三年ト云フガ如キコトヲ以テ、延期ヲ重ヌル
コトノナイヤウニ、根本的ニ臺灣ノ統治ニ關シテハ、意見ヲ定メタイ、就イテハ此法案ヲ以
テ繼續ヲ致シタイ、斯ウ云フ意図ナルノデアリマス、ソレデ委員會ニハ、總理大臣内務
大臣ヲ初メ、臺灣ノ當局者モ出席ヲ致シマシタガ、審査ヲ致シマスル間ニ於テ、多少注
意ヲ致シテ諸君ノ御記憶ニ存シテ置クベキカト思ヒマスル箇條ヲ、一一御報告申シテ
置キヤス、政府ガ此法案、即チ唯今審議ニ付セラレタル法案ヲ提出シテ、此期限ノ切レ
タル場合ニ於テハ、ドウ云フコトヲスル積デアルカ、最早六十三號ノ如キ特別ナル法律
ヲ要セザル積デアルカト云フ問ニ對シマシテハ、政府ニ於テハサウデナイ、臺灣ハヤハリ別段ナ
ル統治法ヲ用井ルコトが必要アルト、答ヘタノデアリマス、ソレカラ總督ハ最早武官ニ限
ラズトモ、文官ヲ以テ之ヲ統治シテ宜クハナイカト云フ問ニ對シマシテハ、政府ニ於テハ、
現ニ兵備ヲ備ヘテ居ルノデ、武官ヲ監督スル關係カラシテ、尙文官ヨリモ武官ノ總督ガ
適當デアルト信ズル、斯ウ云フ答ヲ致シマシタ、ソレカラ將來ノ臺灣ヲ統治スルニ當ラズ
内地同様ニ自然ニ導イテ往ク積デアルカ、ドウスル積デアルカノ問ニ對シマシテ、モウ一ツ
詩シク言ヘバ、内地同様ニスルカ、殖民地流ニナルカト云フ問ニ對シマシテ、總理大臣
ハ無論殖民地流ニ之ヲ統治シテ往カナケレバナラタメト云フ斷言ヨリ致シタノデアリマス、此
レタ大キナ事件ヲ御報告申シテ置クニ過ギナインデアリマス、結局政府ニ於テ此戰時
ノ際ニ十分ナル用意が出來兼ネル、既ニ用意ハ致シテアルケレドモ、總督ノ——戰地ニ
在ル人トノ十分ナルマダ研究モ遂ゲナケレバナラヌ等ノ理由ヲ以テ據處ナイモノト認メマ
シテ、遂ニ委員會ハ原案ヲ可決スルコトニ決シマシテゴザイマス、此段ヲ御報告申シマス

○花井卓藏君（三百七番） 諸君、私ハ此重大ナル問題ニ對シマシテ、願クハ所見ノ一部分ヲ開陳ヲ致シマシテ、諸君ノ御判断ヲ煩ヘシタイト存ズルノデゴザイマス、不幸ニ致シマシテ昨朝來病ノ故フ以チマシテ、（笑聲起ル）唯今モ尙頭痛岑々ト致シテ居ヤウナ次第デゴザイマスルカラシテ、十分ニ意見ノ存在スルトコロヲ開陳ヲ致スコトが出來マセカモ存ジマセヌガ、一ヲ聞イテ百ヲ御知リニナル方々アリマスルカラシテ、此邊ノトコロハ病客ノ心情御通察ヲ豫メ願ツテ置キマス、私ハ本案ニ付イテハ從來ノ自分ノ執リシ態度ヲ一變致シマシテ、深ク内閣諸公ノ德ヲ頌シテ而シテ總テノ點ヲ内閣諸公及臺灣ノ理事者ニ同情シテ、サウシテ反對ヲシヤウト思フノデアル、ソレ故ニ反対ト申シマシテモ、實ハ善意ノ反対デゴザイマスルカラ、滿場ノ諸君ハ一人モ缺カサズニ、私ノ意見ニ贊同ヲセラレ、内閣諸公臺灣ノ理事者モ、喜ンデ反対ノ意見ヲ御迎ヘ下サラレンコトヲ要求致シテ

置キマス、第一ニ研究ヲ致シタイ點ハ、憲法上ノ爭議ト云フモノハ——憲法上ノ疑義ト云フモノハ避ケナケレバナラヌ、憲法上ノ疑義ヲ避ケルヲ要スト云フコトヨリ立論ヲシタイト存ジマスル、私ハ明カニ諸君ニ向クテ自白ヲ致シマス、今日マテ當議會ニ於キマシテモ、葉デアル、政府ヲ驚ス道具致シマシテ、届竟ノ言葉デアル、併シ私ハ自信アリテ、憲法違反ヲ絶叫シタノデゴザイマスルガ、今日ハ所謂穩ナル筆法ヲ以テ、又自分自身ノ自信アリマス、而シテ憲法違反ト云フ聲ハ、聞方ニヨリマシテハ隨分政府ヲ驚スニ足ル良キ言ニ變化フ來シマシタルガ故ニ、憲法違反ナリトハ云ハナイノデアル、問題ハ憲法上ノ疑義ニ係テ居ルモノデアルト云フコトヲ明白ニ致シテ置キタイト思フノデアリマス、顧フニ將來此問題が再ヒ出マスル曉ニ、又々憲法違反ナリ、違憲ナリト云フ聲ノタメニ、問題ノ真相ヲ誤ルコトガゴザイマシテハ相成ラスト存ジマスカラシテ、此讓ル點ヲ、確カニ茲ニ言明ヲ致シテ置キマスル、憲法違反デアルト云フ論ノ根本ト云フモノハ、元來此立法權ト云フモノハ、君主ト議會トが共同ヲシテ行フキ性質ノモノデアルカラシテ、吾ミカ立法權ニ參與スルト云フコトハ、一面ニ於テハ、吾ミノ權利ニシテ、又同時ニ義務デアル、彼カ如キノ立法權ト云フモノヲ、他人ニ渡ス、譲ル、委任スルト云フ事柄ハ、憲法ガ我等ニ與ヘタル立法權ヲ拠棄スルモノデアル、而シテ立法權ノ拠棄ト云フコトハ、事頗ル重大ナルモノデアルケレドモ、帝國ノ法規條章上ニ於テ、之が拠棄若クハ委任ト云フコトヲ是認シタ明文ガナニデハナイカ、然ルニ本案ノ如キ明文ナキニ委任ノ立法ヲ是認スルト云フコトハ、憲法違反ニアラズシテ、何ゾヤト云フノガ、委任論ノ法理論ト致シマシテハ、基本ヲナシテ居ツタノデゴザイマス、併ナカラ此點ハ頗ル考ヘモノデアラウト、私ハ存ジマスル、固ヨリ帝國憲法ヲ讀シテ見マスルト云フト、或事項ヲ規定致シマスルニ付キマシテハ、必ズ法律ニ待タナケレバナラヌト云フノ條章ガ幾ソモゴザイマスル、併ナカラ其條項ニ該當スベキ規定ヲ、法律自身が明文ノ上ニ自ラ現ハストカ、或ハ之ヲ命令ニ讓ルカ、若クハ之ヲ他ノ權力ニ委ネルト云フ事柄ヲ、是認シタ規定ト云フモノハ存在シテ居テ、法律自分が明文ノ上ニ現ハスノモ、法律が明文ノ上ニ他ノ權力ノ上ニ委任スルト云フコトヲ言明スルノモ、法律ヲ以テ規定スルコトタルヤ即チ一ナリアリマスルカラシテ、必シモ之ヲ以テ違憲ナリト停止セラレテ如何トモスルコトノ出來ナイ場合モ生ジテ參ルノデゴザイマスル、況ヤ時ノ必要ニ依リマシテハ、變化極リナキ事項ヲ、一々ニ立法部ノ開會ヲ待ツノ違ノナイト云フ場合モ生ジテ參リマセウシ、或ハ土地ノ狀勢ノ上カラ見マシテモ、一般的ノ法律ヲ行フトコロノ困難ナル場合モ生ジテ參リマセウデ斯ル場合ニ於キマシテ、一々委任立法ハ認ムベカラザルモノデアル、違憲デアルト云フノデ忍ンデ居リマシタナラバ、如何デゴザイマセウカ、内地ノ問題デハ別論デゴザイマスルが、日清ノ戰役ハ無論ノコト、今將サニ、起リツ、ゴザイマスルトコロノ日露ノ戰役ニ於キマシテモ、必ズ此新版圖ノ問題ハ起ツテ來ルデアラウ、時ノ必要上變化極リナキ法律ヲ假ニ制定ヲセンケレバナラヌ必モゴザイマセウ、或ハ又土地ノ狀勢ト致シマシテハ、新版圖ヲ取締ルガタメニ、特ニ制定ヲ要スベキ法律スルニ相違ゴザイマスマイ、併ナガラ國ヲ治ムルト云フノニハ、一種ノ法律的關係ト云フモ

ノハ、如何ニシテモ離ル、コトノ出來ナイ性質ヲ有シテ居ルモノニアリマスルカラシテ、此場合ニ於キマシテハ、法理一片ニ訴ヘテ、事實ノ調和ト云フモノヲ全ク除外スル事柄ハ、到底出來ナイト私ハ信シテ居ルノデアリマス、而シテ憲法上ハ尙此論ハ立て得ラル、ノデアル、政府委員ノ一木君ナドガ、大學ニ於テ獨逸ノ學者ノ「ミヨンネ」テアルトカ、「ラバント」デアルトカ云フ人ノ學說ヲ紹介セラレテ、サウシテ此案件ト云フモノヲ六十三號其モノノ性質ト云フモノハ、憲法違反ニアラズト雖モ、學者間ニ各々異説ガアツテ、一ツノ疑義ニ涉シテ居ルト云フコトダケハ、是認セラレテ居ルノデアル、私ハ從來ノ憲法違反ノ論ヲ讓リマシテ、憲法ノ疑義ニ係レル案件デアルト云フ事柄ノ主張ヲスルノハ、茲ニ存在致シテ居ルノデゴザイマス、テ要スルニ疑義ハ疑義ナリ、明確ナル意義ヲ有セザルモノハ、常ニ疑義デアル、憲法法律ノ問題デハゴザイマセス、諸般ノ問題ニ付イテ、成ルベク疑義ヲ避ケルト云フコトハ、私ハ當然ノ條理ニアラウト思フノデアル、テ少ナクトモ疑義ノ事項ト云ノモノハ、已ムヲ得ザル場合ニ於キマシテ、初メテ、許サルベキ性質ノモノニアリマスルカラシテ、之ヲ行フノ時期ト云フモノハ、永久ニ涉ルヲ許サヌ性質ノモノト論定ヲセンケレバナラナイモノト考ヘマシテ、今日マテハ、云ヲ許サレタ法案ニ反對致シマシタガ、満腔ノ赤誠ヲ捧ゲト存ジマスル、又現ニ當院ニ於キマシテ、六十二號ノ提案ニ當リマシテ、假スニ三年若クハ五年ト云フガ如クニ、誠ニ時期ト云フモノヲ限ラレタハ、憲法上ニ疑義アルガ故ニ、永久不變ニ涉ル立法ノ一般ノ定則ト云フモノハ、許スヘキモノデナイト云フ趣意ヨリ出テタルモノト考ヘマシテ、今日マテハ、云ヲ許サレタ法案ニ反對致シマシタガ、満腔ノ赤誠ヲ捧ゲテ諸君ノ先見ノ明ニ、私ハ同情ヲ表スルノデアル、内閣ノ諸公ニモ同情ヲ表シ、臺灣ノ理事者ニモ同情ヲ表シ、又列席ノ諸君ニモ同意ヲ表シテ、私ノ足ラザルコトヲ茲ニ告白ヲ致シテ置クノデゴザイマス、テ併ナガラニノデアル、ソレカラ又之ヲ告白ヲ致シマスル同時ニ、即チ疑義ト云フモノハ何所マデモ疑義トシテ、所謂疑ハシキ問題ト云フモノハ、確定的ノ意義ヲ有セザルモノニアルカラ、私モ許スノ範圍永久ナルベカラズ、假スニ多少ノ歲月ヲ以テスレバ足レリト云フダケヲ御認メト願ハシケレバナラヌノデアル、ソレカラ又之ヲ許スノ範圍ト云フモノモ、極メテ之ヲ狹クセンケレバナラスト思フノデアル、現ニ當院ニ於テ協賛ヲ與ヘラマシタルトヨロノ先例ヲ調査致シテ見マシテモ、有名ナル明治二十二年ノ法律第八十四號、是ハ無制限ニ委任立法ヲ認メテ居ナノデゴザイマス、併ナガラ、一年以下ノ重禁錮若クハ二百圓以下ノ罰金ト云フ、斯様ナ制限ヲ置イテ居ルノデアル、許スノ期間ハ、三年許スノ範圍ハ、或一定ノ年限、或一定ノ罰金ト云フ如クニ限ラレテ居ルノデアル、ソレカラ又一般ノ例ヲ調査致シテ見マスルト、例ヘバ法律ヲ施行スル期日テアルトカ、或ハ法律施行ノ細則デアルトカ云フヤウノコトノ、害ナキモノノミ命令ニ譲ラレテアルノデアリマシテ、範圍廣カラズ、時期永久ナラズト云フ事柄ガ事實ノ上ニ示サレテ居ルノデゴザイマス、ソレデゴザイマスカラ、私ハ敢ア難キヲ當局者ニ強ヒルノデハナイノデアル、斯ル憲法上ニ疑義ニ涉シテ居ル六十三號ノ提案ヲ遠慮セラレテモ、尙且今日臺灣統治ノ上ニ於テハ差支ガナイノデアルカラ、三年前キ其三年前キヲ顧ミマスレバ、此疑義モ犠牲三供サナケレバナラズ、今ヤ之ヲ避ケルニ相當ナル時機デアル、避ケラレテ事ニ害ガナイノデアルト云フ結論ヲヌガ、今日ニ至リマシテハ、諸公ノ力ニ依リマシテ、臺灣理事者ノ力ニ依リマシテ、今ヤ法律的關係ハ其緒三付イテ居ルノデゴザイマスカラ、此疑義ニ犠牲ニスベキ必要ハ毫モナイト議決ト云フモノハ、重ンゼナケレバナラスト云フコトヲ一言シタイト思フノデアリマス、併シ私ハ信ズルノデアリマス、即チ第一ノ理由ト致シマシテハ、憲法上ニ疑義ハ之ヲ避ケザルベアルカラ、三年前キ其三年前キヲ顧ミマスレバ、此疑義モ犠牲三供サナケレバナラズ、今ヤ之ヲ避ケルニ相當ナル時機デアル、避ケラレテ事ニ害ガナイノデアルト云フ結論ヲ以チマシテ、本案反對ノ第一ノ理由ニ供シテ置キタイト存シマス、第二ニ私ハ立法部ノ議決ト云フモノハ、重ンゼナケレバナラスト云フコトヲ一言シタイト思フノデアリマス、併シ（モウ簡単ニシ給ヘト呼フ者アリ）少シク御聽キヲ願ヒタイト思ヒマス、成ルベクハ、私モカラズ、今ヤ之ヲ避ケルニ相當ナル時機デアル、避ケラレテ事ニ害ガナイノデアルト云フ結論ヲ以チマシテ、本案反對ノ第一ノ理由ニ供シテ置キタイト存シマス、第二ニ私ハ立法部ノ議決ト云フモノハ、重ンゼナケレバナラスト云フコトヲ一言シタイト思フノデアリマス、併シ

同ジク延期ノ案が出テ之ヲ可決シ、三十五年ニ同様ナ案が出マシテ、之ヲ可決シ、後ニ可決スルコトハ前ノ可決ヲ繼スコト、前ノ可決ヲ致シマスルコトハ、其前ノ可決ヲスコトデアル、可決ヲ繼スト云フコトハ、即チ議決ヲ重ンゼヌト云フ結果ニナルノデアル、帝國議會ノ生命ハ千年萬年ニモ涉ランケレバ、相成ラヌト存シマスノニ、帝國議會ニタル帝國議會ノ生命ガ、三年目三年目ニ切レヽニ輕重ヲ爲スト云フコトニ相成リマシタラバ、私ハ將來ノ歴史ノ上ニ如何ナル面目ト、如何ナル信用トが保チ得ラルカト云フコトヲ懸念ラ致ス、法律ヲ朝四暮三ニスルト云フコトハ、決シテ喜ブベキ現象デハナノイデアル、已ムヲ得ザル事情、據處ナキ事情ハ固ヨリ之ヲ諒トセシケレバナラズノデゴザイマスケレドモ、來ルベキ事情ハ三年前ニモ六年前ニモ豫見シ得ラル、モノノデアル、之ヲ豫見セズシテ、三年ニシテ議決ヲ致シ、三年ニシテ議決ヲ致シ、又三年ニシテ議決ヲ致スト云フコトハ、順次ニ決議權ヲ段々制限ラシ、サウシテ輕カラシムルト云フ結果ニナラウト私ハ考ヘルノデアル、是ハ果シテ此憲法政治ノ上ニ喜ブベキコトデアルカ、ナイ、内閣諸公、諸公自身が議員トナツタ御考ヘニナリマシテ、併ナガラ今ヤ既往ノコトヲ彼は申スノアリマセス、此過チヲ一度シ、二度シ、三度セバ可ナリデアル、之ヲ四度スルト云フ事柄ハ、如何ニシテモ私ニ於テハ忍ビナインデアル、列席ノ諸君ニ私ハ申上ゲルノデハナイ、内閣諸公、諸公自身が議員トナツタ御考ヘニナリマシテ、願クバ此ノ如クニ三回四回、將來又五回六回ニ往クカモ知レナイト感ズルマデニ心配ヲサセルト云フヤウナ提案ト云フモノハ、此和衷協同ノ議會ニ於テハ議院ノ面目ヲ保テヤラナケレバナラズ、議會ノ歴史ヲ保テヤラナケレバナラヌト云フ論ト調和セラレテ、御同意ヲ得シケレハナラヌ筋ノモノグラウト私ハ考ヘルノアルケレドモ、ソレハ私ノ註文ガ無理デアル、未ダ臺灣ニハ法律的設備ト云フモノ、十全セルモノガナイガ故ニ、今一年若クハ二年ノ所謂平和克復ノ翌年末日ト云フ、餘程ムツカシイ年號デゴザイマスガ、ソレマデ待ツニアラザレバ法律的設備ガ整ハヌト云フコトデアレバ、最早今日マデ忍耐シタノアリマスカラ、私共忍ヒマスケレドモ、理事者ノ示ストコロニ依テ見マスト、臺灣ニ於キマシテハ、有ラユル法律ハ既ニ完全致シ居ルノデアル、既往九年ノ間に發布セラレマシタコロノ法律、若クハ命令ト云フモノハ大ナルモノガ一百五十四件アルノデアル、之ヲ小別致シマスレバ、勅令ヲ以テ臺灣ニ施行セラレタ法律ハ、五十二件、臺灣ノタメノミニ制定セラレタコロノ法律ハ二十七件、計二百五十四件ト云ヘバ、僅カノ數ノヤウニ思召スカ知レマセヌガ、私ガ此参考書ニ依テ調査致シテ見ルト、大抵内地ノ法律的關係ト云フモノハ、是デ濟シ得居ルノアル、民法、商法、刑事訴訟法、民事訴訟法、總ア行ハレテ居ル、刑罰關係ノ法律、身分關係ノ法律、財產關係ノ法律が殆ド全部行ハレテ居ルノデアル、又臺灣特殊ノ關係ト致シマシテ、即チ財源法トモ見ルベキ、樟腦ニ關スル法律デモ、食鹽ニ關スル法律デモ、殆ド内地ノ立案者デハ、逆モ筆ノ執レナイ程十分精細ニ立案セラ

レテ、現ニ行ハレテ居ルノデ、ゴザイマス、私ハ此ノ如ク致々没々トシテ、臺灣ノ理事者ガ此法律關係ノ整理セラレタト云フ點ニ就キマシテ、多大ノ同意ヲ表スルモノデゴザイマス、曾ア私ハ此演壇ニ於テ委任立法ノ權ヲ臺灣ノ理事者ニ授クルト云フコトハ、恰モ小兒ニ正宗ノ刀ヲ授クルガ如ク、危險ナルモノデアルト論究シタルコトノ、其昨非ヲ覺フテ居ルノデアル、私ハ斯ノ如クニ自分ノ間違ツテ居ルコト、理事ノ見ルトコロヲ誤ミテ居ツタ點ニ就キマシテハ、遠慮ナク告白シテ、自分ノ足ラザルトコロヲ云フノデゴザイマスルカラシテ、理事者モ之ヲ強テ——強アドウシテモ是ナクンバ臺灣ノ統治ハイカヌナド、云フ、大キナ看板ヲ掲ゲラレテ、サウシテ議員テハナイ、議員外ノ俗耳ヲ驚カスヤウナ御態度ハ御採リニナラヌ方ガ、後ノタメニ宜イデハナカラウカト、私ハ考ヘルノデアリマス、實ニ私ハ政府當局者ニ向ヒマシテ、同情ヲ表セシコトハ生レテ始メテアル、斯ノ如ク敬意ヲ拂フテ居ル、此敬意ヲ空クシテ戴イアハ、誠ニ私ノ歴史ノ上ニモ大瑕瑾ニナルノデゴザイマスカラシテ、善意ヲ御受取下サルコトヲ希望致シマス、ソレカラ此場合ニ一言ヲ致シテ置キタイコトハ、此法律案ノ理由書、此理由書ガ實ニ能ク出來テ居ルノデス、此德ヲ頌シタイト私ハ思ヒマス、此六十三號ト云フ法律ハ、時局ニ鑑ミテ存續スルノ必要ガアルト云フコトガ書イテアル、(「要領ダケ伺ヒタ」ト呼フ者アリ)要領ガナカク、一口デハ言ヘナイノデス(「贊成ヤラ反対ヤラ分ラヌ」ト呼フ者アリ)時局ト云フ理由ハ、甚ダ面白イ、私ハ時局ト云フ理由が甚ダ面白イト思フ、ソレデ時局アルカラ、私ノ反対ニ贊成フシテ貰ヒタイト云フノデアル、實ニ御承知ノ如ク、忠勇ナル軍人諸氏ハ、遠ク征途ニ在テ、國家ノタメニ身命ヲ抛テ居ルノデアル、其職ノタメニ盡シテ居ルノデアル、私等議員ハ憲法法律ノ條章ノ下ニ成ベク憲法ノ疑義ヲ避ケルヤウニ、成ベク立憲ノ面目ヲ保ツヤウニ、成ベク間違ツテ法律ヲ作ラナイヤウニ、憲法ニ忠節ヲ盡スト云フノハ、軍人が征途ニ在ツテ時局ノタメニ盡スト同シコトデゴザイマスカラシテ、外ノ軍人ハ忠勇ナル軍人、征途ニ在テ職ニ仆ル、モ可ナリ、我等忠勇ナル議員ハ憲法ノタメ仆レナイ、忠良ナル憲法上ノ立法部トシテ我彼ト同様ナル態度ヲ取ルコトカ出來ナイト云フガ如キ事柄ニ相成リマシテハ、甚ダ時局ノ文字ニ對シテ恥シクハアルマイカ、顧ニ二政府ガ、時局ノ文字ヲ茲ニ掲ゲラレタノハ、私ノ如ク穩ニ論シテサウシテ此案ニ反対スルト云フ事柄ヲ見タイト云フ御考デアツタノデアラウ、外ノ忠勇ナル軍人ト、内ノ忠良ナル議員ト、與ニ共ニ時局ノタメニ其職ニ仆ル、ト云フノ忠誠ヲ見タイト云フ御考ヨリ御出シニナツタモノデアルト見テ、此忠愛ノ文字ニ私ハ重キヲ置イテ居リマス、(「モウヨシ給ヘ」ト呼フ者アリ)サウ云フ次第デゴザイマスカラシテ、願クハ此時局ト云フ文字ニ、多大ノ注意ヲ拂ハレマシテ、本案ニ反対ヲセラレント私ハ望ムノデアリマス、「モウ宜カラウ」又「モウヨシ給ヘ」ト呼フ者アリ)言フダケノコトハ申上ゲタイト存ジマス、モウ長クハゴザイマセス、第三ニハ委任立法ト云フコトノ、臺灣ノ理事者ノ將來ノタメニ、不得策アルト私ハ思フノデ、是カラハ諸君ノ同情ヲ得ラルベキ論デヤル、私ノ見ルトコロデハ、此新版圖ト云フモノヲ同化シテ、母國同様ニシタイト云フ事柄ハ、何人モ希望スルトコロニ相違ハゴザイマセヌケレドモ、逆モ速成ニ斯ウ云フ事柄ノ遂ゲラルベキモノデハナイノデアル、ソレデゴザイマスカラシテ、我帝國ノ中ニ於キマシテモ、沖繩縣ニ行ハレテ、他ノ國ニ行ハレナイ法律ガアル、北海道ノミニ行ハレテ他ノ所ニ行ハレナイ法律ガアル、即チ時ノ必要、時ノ情勢ヨリ、法律ヲ特別ニシナケレバナラヌ、所謂限地的性質ヲ有スル法律ハ、幾ツモ出テ居ルノデゴザイマスカラ、臺灣ニ於キマシテモ、此方法ニ依テ六十三號ナド、云フヤウナ、議

會ニ氣兼苦勞ヲシテ、サウシテ僅カ三年位ノ繫キオスルト云フヤウナ一時的ノモノヲ、全然止メテ新領土ニ於ケル限地的ノ法律ヲ立派ニ作ツテ、サウシテ露骨ニ此議會ニ提案ヲセラレテ、臺灣ノ法律是ニテ可ナリト云フ、協賛ヲ經マシマシタナラバ、將來ドレダケノ得ガアルカモ分ラナイノアリマス、此途ニ出ラヌノハ、畢竟六十三號ト云フモノデ、三年經テバ出來ルデアラウ、四年經テバ出來ルデアラウト云フダケノ考ヲ有セラレルコトノ誤リヨリ、クドンナ大キナモノデモ宜シウゴザイマスカラシテ、ソレヲ御出シナツテ、御協賛ヲ御求メニナラ、如何デアラウカ、或場合ニ於テハ、大ニ贊成シャウト思フ、然ラザレバ如何トモスルコトが出來マイト、私ハ思フノデアル、斯ウ云フコトヲ申上ゲテ置キマシテ、此壇ヲ降ラウト思ヒマスガ、此壇ヲ降ルニ就キマシテ、私ハ一言ヲ添ヘテ置カナケレバナラヌ、チヨコト忘レマシタガ、十二議會ニ於ケル星享君、重岡薰五郎君、十六議會ニ於ケル神鞭知常君、金岡又左衛門君、二十一議會ニ於ケル大石正己君、是等ノ人々ノ演說質問ノ趣意ニ於キマシテハ、私ノ論ズルヨリモ今一層剝切ニ痛切ニ、六十三號ノ非が論定セラレテアル、ソレカラ其他ノ政黨集會ノ席ニ於ケル諸名士ノ演說質問ト云フモノモ、新聞紙上ニ於テ承ツテ居リマスガ、是亦私ノ所論以上ノ強サヲ以テ居ルノデゴザイマス、ドウカ是等ノ諸君ノ御贊成下サルト云フ事柄ハ、無論ノ話ゴザイマスガ、滿場デ一人モ残ラズ此案ヲ御迎ヘサイマシテ、私ノ議員ノ歴史ノ上ニ光榮アラシメントスル善キ了簡ニ贊成セラレシコトヲ希望致シマス。

○守屋此助君(百九十一番) 質問ガアリマス——イヤ、花井君テハナイ、内閣へ質問デス、私ハ大岡委員長ノ報告ノ中ニ承ツテ、由タシキ大事ヲ承リマシタ、國家ノタメ私ハ實ニ言フニモ忍ビヌ心地ガ致シマスガ、併シ議員ノ職責トシテ、義務トシテ、内閣諸公ニ能ク聞イテ置カケレバナラヌコトガアリマス、ソレハ大岡君ハ如何ニ言ハレタカ、臺灣ハ殖民地トスルノデアルト云フコトヲ、總理大臣ガ言ハレタ云フ、此一言ゴザイマス、諸君ニ十八八年馬關條約ヲ取リシ此臺灣ハ、帝國ノ殖民地ト云フコトヲ、現内閣總理大臣ノ明言セラレタ一言ハ、吾々議員トシテ實ニツツスルデハゴザイマセヌカ、日清戰爭ノ後、戰後ノ經營ト云フ事柄ヲシタ當時カラ致シテ、私ハ殖民地トスルト云フコトヲ——臺灣ヲ殖民地ニスルト云フコトハ、何レノ内閣カラモ承ツコトハナイ、殖民地ト云フ事柄ハ——ソレデ此臺灣ヲ殖民地トスルト云フ事柄ト云フモノハ、何時内閣ハサウ云フ事柄ヲ——方針ヲ立テラタノデアルカ、是ガ承リタイ、殊ニダ、彼ノ土ヲ我領土トシ、彼ノ民ヲ我領民トシテ此母國ニ同化セシメ我皇ノ化ニ浴セシムルト云フ事柄ガ、馬關條約デ取リシ以來ノコトデアルト、私ハ確信シテ居ツクノデアル、然ルトコロガ此殖民地トスルトハ——ソレデ此臺灣ヲ殖民地トスルト云フ事柄ト云フモノハ、何時内閣ハサウ云フ事柄ヲ——方針ヲ立テラタノデアルカ、是ガ承リタイ、殊ニダ、彼ノ土ヲ我領土トシ、彼ノ民ヲ我領民トシテ此母國ニ同化セシメ我皇ノ化ニ浴セシムルト云フ事柄ガ、馬關條約デ取リシ以来ノコトデアルト、斯ウ云フノガ要スルニ六十三號ト云フモノハ殖民地トスルト云フコトハ、ソコデ問ヒタノハ是ハ私ノ誤解デアツタ一十八八年ノ馬關條約ヲ取リシ以テ云フ意アル、ソレハ内閣ハ理解シテゴザルノデアルカ、ソレカラ又今度平和克復後一年後マテ此法律ヲ延期シテ置ク、其間ニ特別ノ法律ヲ施行ヘルト云フノハ、殖民地政治ヲスル法律案ヲ挙ヘルト云フ意アル、ソレ故ニ委任立法權ヲ以テシナケレバナラヌト、斯ウ云フノガ要スルニ六十三號ヲ存續スル竝ニ六十三號が最初出テ理由アツテ、サウシテ今度繼續ベル理由ニモソレルノデゴザイマスカラ、臺灣ニ特別ノ法律ヲ要スルト云フノデアル、是ハ臺灣ニ特別ノ法律ヲ

法律ヲ要スルノハ、恰モ臺灣ニハ特別ノ豫算ヲ要スルノト同シコトデ、豫算ノ會議ヲスルトキニ、臺灣ニコレヽノ費用ガ要ルト云フコトノ特別ナル理由ヲ述ベテ、議會ノ協賛ヲ求メテ來ル、特別ノ理由ヲ多才能辯ナル後藤君ヲ始め、臺灣當局ノ歴々ノ諸君が御說

○守屋此助君(百九十二番) 議長——議長
○議長(松田正久君) 竹越與三郎君
(竹越與三郎君登壇)

明ニナシテ、臺灣ニ特別ノ事情ガアリテ、特別はダケノ金ガ要ル、例ヘ二千万圓ノ金ヲ
使シテ居ルノモ、特別ノ理由ノ下ニ、特別ノ豫算ヲ議決スルダケノ議員ガ、憚リナガラ、智
識權能ガアルデハナイカ、此智識權能ヲ有シテ居ル議員ヲ愚ニシテ法律ヲ立テルコトダケ
ハ、逆モ諸君ハ臺灣ノ當局者ガ特別ノ事情ヲ説明シテモ、理解ガ出來ナイデアラウ、ソレ
故ニ特別ノ理由ノ下ニ立法ノ權限ニ依リテ、總督始メ民政局長官ガヤラナケレバナラヌ

○竹越與三郎君(八十四番) 私ハ委員長ノ報告ニ賛成ヲスル一人デアリマス、議場テ諸君ノ御耳ヲ煩ハス必要ハナイカト思ヒマスルガ(其通ト呼フ者アリ)併ナガラ斯ル問題ハ鄭重ノ上ニモ鄭重ヲ盡シ、明白ノ上ニモ明白ニシテ置キタイト思フノダ、聊カ諸君ノ寛大ヲ利用シタイト思ヒマス、此問題ハ僅ニ一ノ法律案ヲ通過スルト否トニ過ギザルガ

ト、斯ウ云フ理由ニアラウト思フガ是ハ私ノ考テハ少シモ理由ニナラメト思フ、豫算ヲ議スルニ當ダテモ、特別ノ理由ノ下ニ決議ヲシテ居ルノアルカラ、立法モ特別ノ理由ヲ述べレバ、特別ノ理由ノ下ニ臺灣ニ特別ノ法律ヲ立テルコトハ、恰モ北海道ニ行ハル、法律ヲ、議員カ議シテ居ル、又北海道ニ行ハヌトカ、或ハ沖繩縣ニ行ハヌトカ云フ法律ヲモ立テ、居ルノアル、ソレト同一筆法ノ動キヲスレバ、私ハ花井代議士ノ言ハレタ如キ、憲法上ノ疑ノアルモ、否ナ、憲法違反トマズ絶叫セラル、事柄ヲ——事柄ヲソレヲマデモ忍ンテシナケレバナラヌト云フ理由ノ必要ハ、私ハナイト思フノデアル、殊ニ臺灣ト云フ事柄ハ、大變ムエカシイ事柄フ言ハレマスケレドモ、總督ガ參謀本部ニ來リ、軍ニ出タルシテ何年居ラナクテモ、臺灣ハ氣樂ニ治マツテ往クデハイカ、ソレデアルカラ、私ノ考ハ第二ノコトハ、何故此法律ダケハ特別ノ理由ヲ帝國議會ニ述ベテ、特別ノ法律ヲ擇ヘテ貴ヒタイト云フコトヲ言ハレヌカト云フコトハ、第一ノ殖民地ト云フ由々シキ大事件、此二點ニ付イテ、内閣諸公カラ明確ニ御答ヲ願ヒマス

如ク表面ガテ言ヘバ甚ダ大ナラサルが如クノヤウニ見エマスか、其實此法律ヲ通過スルト否トハ、我日本が東西南北ニ膨脹スルニ當ブテ、其膨脹ニ付イテ來ルトコロノ土地人民ヲ如何ニ支配スベキカト云フ、大ナル殖民政策ヲ含ンダ問題ト思フノデアリマス、（ヒヤセヤ）ト呼フ者アリ）故ニ此問題ヲ決スルニ當ブテハ、唯多數ヲ以テ決シタト云フコトデハ甚ダ本意ニアニ、斯ル理由ニ依シテ決シタト云フコトヲ明白ニシテ置キタイト思フノデアリマス、諸君ハ吾ノ祖先ノコトヲ御考ニナレバ、天智天皇が朝鮮ノ白村江ニ敗軍セラレタル以來、豊太閤ノ八道蹂躪ヨリ、又八幡船ガ遼東沿岸ヨリ蘇州杭州ノ沿岸ヲ侵略シタルコトヲ考ヘテ見レバ、其績ハ極メテ勇壯活潑ナルニモ拘ハラズ、不思議ニモ我國ニハ何等ノ新領土ヲ附ケナカツタノデアル、我國ニ新領土ヲ附ケタノハ、一十八年ニ臺灣ヲ取クタノガ初メテアリマス、斯ノ如キ歴史ヲ持シテ居ル國民デアルカラ、臺灣ヲ取ル時ニ、唯劍ノ先ニ掛けテ取ツタダケデアツテ、如何ナル領分トシテ取ルカト云フ決心ハ付イテ居ラナカツタノデアル、故ニ之ヲ領有シタ後モ、如何ニシテ統治スベキヤト云フコトハ、朝野ト

○政府委員（一木喜徳郎君） 唯今ノ御發言ハ御意見ノヤウニモ承ハリ、又御質問ノヤ
ニモ承ハリマシタガ、御質問トシテ一應御答ヲシテ置キヌ、總理大臣が委員會ニ於テ殖民
地トシテ坂ノダアルト云フコトヲ言ハレタ三付イテ、「云々ト云フ御尋ネモアリマシタガ、殖民
地ト云フコトハ、隨分イロ／＼ノ意味ニ用井ラル、言葉ニアラウト思フ、學者ニ定議ヲ下
サシメタラバ、殖民地ト云フコトニ付イテハ、人ノノ定義ハイロ／＼デアラウト思ヒマス、
要スルニ臺灣ニ於キマシテハ、内地同様ノ制度ヲ以アスルコトが出來ナイ、特別ノ制度ヲ
以テ支配シナケレバナラヌト云フコトハ、豫テヨリ執シテ居ルトコロノ方針アルノアリマ
ス、其意味ヲ言現ハヌタメニ、殖民地ト云フ言葉ヲ用井ラレタノデアリマス、サウシテ其特
別制度ハ如何ナルモノデアルカト云フコトハ、既ニ委員長ヨリ報告セラマシタ如ク、政
府ニ於テモ、取調ベテ居ルノデス、其制度ガ諸君ノ前ニ提出セラル、ヤウナ場合ニナリマ
シタナラバ、自ラ殖民地ト云フ意味ハ明瞭ニナルノアラウ、或ハ是ニ對シテ殖民地ト云
フ名稱ヲ付スルノハ、言葉ノ用井方が惡ルイト云フ御論ガアルカモ知レマセヌ、或ハ是ナ
ラバ殖民地ト云々テ宜イト云フ御論ガアルカモ知レマセヌ（守屋此助君「ノウ／＼ソシナ
殖民地ガアルモノカ良心ニ耻デナイコトヲ言ヒ給マヘ」ト呼フ）ソレカラ豫算ハ議會ノ協
贊ヲ經ルガ法律ハ何故ニ特別ノ律令ト云フモノニ依テ、ヤツテ往カナケレバナラヌカト云
フ御問ニアリマシタガ、是モ亦先刻申上ゲマシタ通ニ、此唯今ノ御質問ハ、將來ノ制度
ヲ豫メ頭ニ置イテノ御尋ノヤウデアリマスガ、將來如何ナル制度ヲ立テルカト云フコトハ、
諸君ノ前ニ御目ニ懸ケルヤウナ場合ニナリマシタラバ、此疑問モ自ラ冰解スルデアラウ

吉利ガ印度ヲ持ツテ居タヤウニ治メタイト云フ人モアリ、免ニ角唯領分ヲ取フタト云フダ
ケデ、之ヲ領土トスルカ、殖民地トスルカ、將々縣ヲ「殖ヤシタト云フコトニスルカ、其見
解ガ一定シテ居ラナカツタト思フ、「ソノナコトガアルモノカ」ト呼フ者アリ)サウ云フモノハ
四千万人中一人デアル——而シテ之ヲ如何ニシテ統治シテ宜イカト云フ、臺灣ニ付イテ
稍理窟アル見解ヲ下シ始メタノハ、彼ノ高野事件ハ既ニ御忘レニナッ
タ人モアルカ知ラヌガ、臺灣ニハ憲法ガ行ハレテ居ルモノデアル、然ルニ憲法上ノ保障
ガ裁判官ニ及ボサヌト云フ理由ハナイト云フコトデ争ツタノデアリマス、當時高野君ノ
仕ヘタル政府ハ、甚ダ人望ノ多クナイ政府デアツカラ、是ニ對スル高野君ノ舉動ハ極
メテ天下ノ同情ヲ引イタノデアリマシタ、併ナガラ其問題ハ今ニ至ツテ尙不明デアル、併ナ
ガラ此内閣ハ憲法ガ臺灣ニ行ハレテ居ルト云フ見解ヲ取テ居ルモノト見受ケラレテ、即
チ茲ニ六十三號ノ復活ヲ要求サレテ來タ、即チ憲法ガ臺灣ニ行ハレテ居ルカラ、其
除外例ナル六十三號ヲ認メル必要ガ茲ニ出テ來タノデアル、併ナガラ臺灣ニ憲法ヲ
其儘ニ行フト云フハ、極メテ大膽ノ意見テアツタト思フ、併シ諸君、是ハ憲法上ノ空論
ト思ハレルカ知ラヌガ、暫クノ間諸君ノ耳ヲ假シテ戴キタイ、即チ此高野事件以來
臺灣が殖民地デアリハシナイカト云フコトガ、稍朝野士人ノ心ニ這入シテ來タ、私ハ
唯今盛ナル議論ノアツタニ拘ハラズ、臺灣ハ殖民地デアルト斷言シテ憚カラス、殖民
地トハ何シデアル、風俗、習慣、人情、歴史、人種ノ異ラタ所ニ別人種ガ這入シテソコ
ニ殖民スルト云フコトデ、此外何等ノ意義モナイ、臺灣ハ確カニ殖民地ニ相違ナイ(馬鹿

ナコトヲ云フナ「ソンナ愚論ガアルカ」「エライ解釋ダ」ト呼ヒ議場騒然臺灣人口三百万人、其中十万人(モウヨセ)「長ク云フト却テ賛成が減ル」ト呼ヒ議場騒然三百万入ハ支那人アル、此支那人ハ東京市中於テ諸君が見ルガ如キ支那人ハナイ、銅色ノ脣ヲ出シテ、續鼻樺一ソテ天秤棒ヲ擧イテ居ル支那人アル、其歴史ハ吾ミト全呼ク關係ノナイ、風俗ノ異ツテ居ルモノアル、「日本人ダ」「ノウ」「ト呼ヒ議場騒然」即チ我大日本帝國ニ於テハ、外國人ニ土地所有權ヲ與^テ居ラザルニ拘ハラズ、臺灣ニハ外國人ニシテ日本ノ領地ヲ持ツテ居ル外國人がアル、斯ノ如ク法律的結果トシテ、歴史カラ云ヅテモ、民事カラ云ヅテモ、異ツタ所ニ、僅ニ五万六万ノ同胞が居ツテ殖民ヲシャウトシテ居ルノデアル、是が即チ殖民地アル(「ソンナ亂暴ノ議論ガアルカ」ト呼ヒ議場騒然)、偕此殖民地ヲ如何ニシテ治メルカト云フコトニナベ、其統治ノ方法ハ歐羅巴諸國ノ先進殖民地ノ例ニ依ツテ治メルヨリ外ハナイト思フ、諸君ハ暫ク私ニ英吉利ノ殖民制度ヲ茲ニ論及スルノ自由ヲ與ヘテ貴ヒタ(「モウヨセ」「簡單簡單」ト呼ヒ議場騒然)御承知ノ如ク英吉別ノ殖民地制度ハ一樣デナ、所謂王政、殖民、即チ「クラウンコロニイ」が第一デアル、是ハ立法行政トモ、總督ノ手ニアルモノデ、總督が指名スル人間カラナタ評議會ガ、立法行政ニ參與スルコトハアルガ、要スルニ王權ノ發動ニ外ナラヌノデアル、即チ錫蘭、香港ノ如キハ其類デアル、第一ニハ半バ自活制度ヲ採ツテ居ル殖民地ニ、總督ハ王命ヲ奉ズルモノデアルカ、總督ノ下ニ代議政體ガアル、代議政體ハ人民が選舉スルケレドモ、王權ハ全然行政ヲ支配シテ居ルノデアル、「簡單々々ト」呼ヒ議場騒然)即チ(「モウソンナコトハヨシ給ヘ」)「簡單々々」賛成が減ルゴト呼ヒ議場騒然)

○議長(松田正久君) 静肅ヲ望ミマス

○竹越與三郎君(八十四番) 第三ハ自然殖民地アル、即チ濠洲加奈太ニウフアンドランド喜望峰ノ如ク、「簡單々々」ト呼ヒ議場騒然)第四ハ特許會社ノ領土ニアル、即チ會社が王權ヲ持ツテ居ル會社ノ會計ハ大藏大臣アル、薦ノ者ハ警視總監アルト云フ制度アル、制度ハ一樣デナイガ、併ナガラ英吉利本國ノ憲法ヲ其儘ニ行ハナイ、英吉利ノ議會が殖民地ノタメニ法律ヲ作ラヌト云フコト、殖民地カラ租稅ヲ本國ニ取ラヌト云フコトガ、殖民制度ヲ通ジテノ原則デアル、斯ノ如キ制度ハ何カラ來タコト云ハベ、英吉利ガイロ^クノ殖民地ヲ持ツテ失敗ラシ、成功ヲシテ學ンダ經驗カラ來タノデアル、我日本が殖民地制度ヲ取ルニ、何ヲ模範トシテ宜イカ、即チ此英吉利ヲ模範トスルヨリ外カハナイト思フ、然ルニ此臺灣ニ向ツテ特別ノ制度ニ採ラナイデ、其儘デ唯日本ノ如クシャウト云フナラバ、諸君ハ先ツ臺灣カラ代議士ヲ選舉シナケレバナラヌコトニナル、憲法ハ臺灣ニ其儘行ハントスルナラバ、生番ガ「無用々々」ト呼ヒ議場騒然)三分ノ二ノ土地ヲ「無用々々」ト呼ヒ議場騒然)認識シナケレバナラヌ、「無用」簡單議場騒然)斯ウ云フ譯ダルカラ、臺灣ハ如何ナル點カラ見テモ、殖民地的ニ治メルメテ總督ニ一任スル必要ハナイト云フ人ガアルカ知ラヌガ、サウナレバ均シク行政官アルヨリ外ハナイ、故ニ私ハ此法律ノ六十三號ニ依ツテ、臺灣ニ特別ノ制度ヲ施クト云フコトハ、豈ニ審次期ノミナランヤ、今日一明日本ニ於テモ必要デラウト思フ、或ハ中ニ臺灣ニ特別ノ制度ヲ施クナラ宜イガ、中央政府自ラ發令シタナラ宜イデハナイカ、法律ハ改メテ總督ニ一任スル必要ハナイト云フ人ガアルカ知ラヌガ、サウナレバ均シク行政官アルカラ、中央政府ヲ信任スルト同時ニ、總督ヲ信任シテ宜イト思フ、私ハ臺灣ヲ實見シタコトガアルガ、諸君ノ言ハレル如ク、臺灣ニ於テ稍秩序ヲ回復シテ來テ居ル、土匪ハ全滅

シテ居ル、是等ハ一ノ成功ト云ツテ差支ナイ、併ナガラ此成功ヲ見タカラト云ヅテ、六十ニ號ノ特別制度ヲ取除イタナラバドウアル、其結果ハ稍秩序ヲ得タモガ、再び紊亂ニ陥ルコトニナラウト思フ、私ハ臺灣ノ財政ノ獨立、土匪ノ全滅ヲ以テ總督ノ功勳デアルト云フコトニ躊躇ハシナイガ、同時ニ我議會が寛大ナル心ヲ以テ、之ニ自由ヲ與ヘテ治メサセタコトが大原因デアルト思フノデアル、諸君ハ其始アツラ其ノ終リナケレバナラヌ、諸君ハ既ニ自由ヲ與ヘテ、此ノ如キ功勳ヲ得タナラバ、尙臺灣ニ特別ノ制度ヲ施クト云フコトニ付イテハ、尙寛大ノ心ヲ續ケ給ハシコト希望スルノデアリマス、贊成ノ主意ハ左ノ如シ

(恒松隆慶君「討論終結ニ願ヒマス」ト呼フ)

○野木善三郎君(百八十四番) 私ハ本案ニ賛成致シマス、贊成致シマスガ、兔角此決議ノ理由ヲ明カリニシテ贊成シナケレバナラムト云フコトハ、花卉君或ハ竹越君ナドカラ御話ガアリマシタ、是ハ尤モデアリマス、私ハ一體主意トシテハ反對デアリマス、花卉君ノ如キ議論ハ頗ル宣シトイ思フノデス、併ナガラ此等ノ議論ヲ皆取ツテ除ケテ、サウシテ茲ニ贊成ヲシマスル理由ハ、總テ此戰局ノタメニ――時局ノタメニ再考シタノデアル、時局ハ我邦ハ連戰連捷デ、既ニ遼陽ヲ取り旗順ヲ取ツタケレドモ、所謂前途遼遠デアル、此際ニ當ツテ臺灣ノ問題ヲ否決シタ、或ハ不贊成デアツト云フナラバ、政府ノ力ヲ殺グノデアル、政府ノ力ヲ割ルノデアル、ソレ故ニ吾ミハ總テノ問題ヲ取ツテ除ケテ、サウシテ之ニ贊成スルノデアル、少シモ此案ニハ贊成スル理由ガナイ、併ナガラ國家ノタメニ時局ノタメニ、吾ミハ忍シテ贊成スルノデアル、臺灣問題ノタメニ、政府ノ力ヲ殺グヤウナ事がアツテハナラヌカラ、全力ヲ戰局ノ方ニ用井タイトト云フ考カラ總テノ問題ヲ取ツテ除ケテ此案ニ贊成ヲスルノデアル

○恆松隆慶君(百五十九番) 討論終結

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 討論終結ノ動議ニ賛成者ガアリマスカ

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 定規ノ賛成者アリト認メマスル、討論終結ノ動議ニ御異議アリマスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ討論終結シタルモノト認メマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○恆松隆慶君(百五十九番) 直チニ二讀會ヲ開カレンコトニ望ミマス

(「異議ナシ」又「異議アリ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 直チニ二讀會ヲ開キマス

(「大ニ異議ガアル」ト呼フ者アリ)、(望月長夫君「反對者ガアルニ異議ノナイ旨

起立者 多數
○議長(松田正久君) 多數デアリマスカラ、直チニ二讀會ヲ開キマス
(「ナイデハナイカ」ト呼フ)
○議長(松田正久君) 異議ガアリマスカ――然ラバ採決ヲ致シマス、直ニ二讀會ヲ開キマス
タノ動議ニ賛成者ハ起立ヲ望ミマス

明治二十九年法律第六十三號ノ有效期間ニ關スル法律 第二讀會
案(政府提出)

○恵松隆慶君(百五十九番) 委員長報告通異議ナシ
○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通異議ハアリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通決定ヲ致シマス
○恵松隆慶君(百五十九番) 直チニ二讀會ヲ開ケテ確定セラレンコトヲ望ミマス
○議長(松田正久君) 「贊成々々」ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 定期ノ贊成者アリト認メマス、恵松君ノ動議ノ如ク直チニ第三讀會ヲ開キ、本案ノ全體ヲ討議ニ付シマス

明治二十九年法律第六十三號ノ有效期間ニ關スル法律案
(政府提出)

確定議

〔「二讀會ノ通異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 発言ノ請求者ナレバ、本案ハ二讀會ノ決議通確定致シマス、議事日程第八、在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法案ノ一讀會ヲ繼續致シマス、委員長ヨリ報告ヲナス、神鞭知常君——神鞭知常君ハ缺席ナレバ小川平吉君

〔小川平吉君登壇〕
第八 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

○小川平吉君(三百二十六番) 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法案委員長神鞭知常君缺席ニ付キ、理事ノ私ヨリ御報告ヲ致シマス、本案ハ多年宿題トナリ

マシタ、御承知ノ朝鮮ニ於ケル我國人ノ設立致シマシタル學校ノ職員ニ對スル保護ノ法

案デゴザイマシテ、委員會ハ大體ニ於テハ、全員皆異存ハナカツダガゴザイマスルガ、唯此第一條が問題ニナリマシタ、第一條ハ本法ヲ適用致シマスル範圍場所デゴザイマス、此適用ノ範圍竝ニ本法ニ依テ保護ヲスルトコロノ職員ノ學校ノ數ノ制限ガ、第一條ニ

アリマス、此制限ト適用ノ範圍ト云フモノガ、問題ニナリマシテ、第一條ニ就キマシテハ、在韓國本邦人ト云フコトニナシテ居リマシテ、此法律ヲ韓國ニ於ケル學校ノミニ限ルトテ請求ヲシテ來テ居ルノデアル、其他ノ場所ヨリハ、未ダ斯ル請求ガナカツタ、ソレ故ニ先

ア朝鮮ト定メタノテアルト云フヤウナ意味ノ答辯デゴザイマシタ、又此補助料ノ費用ノ關係ト云フモノモアル、ソレデアルカラシテ、本法ハ朝鮮ノミニ限ル、斯ウ云フ説明デゴザイマシタ、ソレカラ又第一ノ學校ノ數ハ、二十校ヲ超エルコトヲ得スト云フノデ、學校ノ數ガ制限シテアル、此制限モドウ云フ譯デ此制限ヲシタカト云フコトヲ尋ネテ見シマシタコロガ、先ダ當分ノ間ハ二十校位ニ極メテ置イテ宜カラウト思フ、若シ此制限ヲ解イタキニアルト、或場合ニ多數ノ學校ヨリシテ、續々此保護ヲ請求シテ來テ、本法ヲ適用シテ往カナケレバナラヌ、サウ云フ場合ニナリマスト云フト、隨分此豫算ノ方ニモ關係ヲ持テ來ルカラシテ、先ダ二十校ト制限ヲシタノテアルト云フ答デゴザイマシタ、ソレカラ今日此

法律ヲ適用致シマスレバ、ドレ程ノ金ガ要ルカト云フコトノ間ニ對シマシテ、政府委員ノ答ハ凡ソニ二百圓位アツラバ宜カラウト云フ答デアリマシタ、ソコデ委員會ハ質問ヲ致シタ後ニ、委員ノ宮崎榮治君ヨリ修正案ヲ出シマシテ、即チ諸君ノ御手許ニ回シテアリマス通ノ修正案アリマス、此修正ノ通ニ詰リ決シタノデゴザイマスガ、其理由ヲ簡單ニ申シマスト、是ハ朝鮮以外ノ例ヘバ布哇デアルトカ、或ハ支那デアルトカ、其他ノ諸國ニモ汎ク適用スルコトノ出來ルヤウニシテ置イタ方が宜シイ、今日之ヲ其他ノ國ニ悉ク適用セヨモ、必シモ今日直チニ之ヲ適用セシケレバナラスト云フコトハナイ、當局者ガ適當ナリト認ム時、及其場所ニ向シテ適用スルコトが出來ルノアルカラ、是ハ朝鮮ノミニ限ラズシテ、其他ノ外國ト云フコトニ削ヅテシマツカ方ガ宜カラウト云フ意味ヲ以テ、即チ修正ヲ致スコトニ決シマシタ、此第一項ニ付イテハ承ルトコロニ依リマスルト、原案ノ又原案トモ云フ一番元ノモノハ、ヤハリ在外國トナツテアツサウデゴザイマス、諸君、此法案ヲ見ルト直チニ分リマス、皆外ハ外國トナツテ居ル、此ノミガ韓國トナツテ居ル、ソレカラ第一項デゴザイマスガ、此第二項モ簡單ニ説明致シマス、是モ學校ノ數が當局者ノ見込ト、委員會ノ見込トハ大ニ違フ、委員會ニ於テアハ朝鮮ノミデモ、近キ將來ニ於テ二十二モ三十モ殖エル、若シ之ニ對シテ金ガ要ラテモ、ソレハ詰リ學校が殖エル、國民が殖エルタメニ要ルノデアルカラ差支ナニ、多々益辨ズルト云フ趣意ヲ以テ、學校ノ制限ヲ取ツタノデ、是モ前ノト同ジコトデ必シモ校數ヲ限テ置カズトモ、當局者ガ適當ト認メレバ、二十二モ五十モ宜カラウト云フ理由ヲ以テ、第二項ハ削除致シマシテ、其他ハ原案ノ通決定致シマシタ、此段報告ヲ致シマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ委員會ノ修正ガ最モ適當ト思ヒマス、ドウカ讀會省略ヲ以テ確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 讀會ヲ省略スル動議ニ御異議ハアリマセヌカ
〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ、讀會ヲ省略シテ、全部ヲ討議ニ附シマス

〔委員長報告通異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通ニ御異議ハアリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通ニ御異議ハアリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

第一項ノ規定ニ依リ法人ノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ貨物旅客ノ運搬ニ從事

スル者ハ航海獎勵法第十二條及第十七條ニ掲タル代人ト看做ス

○議長(松田正久君) 發議者ナケレバ日程第十二移テ右議案ノ審査ヲ付託スベキ
委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

○恒松隆慶君(百五十九番) 本案ハ九名ノ委員、議長指名ナランコトヲ願ヒマス
○議長(松田正久君) 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ其通決定致シマス、議事日程第十一及第十二ハ、同一委員ニ付託サレテ居リマスカラ、併セテ委員長ヨリ報告ヲ致シマス——渡邊修君

第十一 衆議院議員選舉法中改正法律案

第一讀會ノ續(委員長)
(渡邊修君外五名提出)

第十二 衆議院議員選舉法中改正法律案

第一讀會ノ續(委員長)
(渡邊修君外五名提出)

(渡邊修君登壇)

○渡邊修君(九十四番) 委員會ノ報告ヲ致シマス、吾ニ付託ニナシテ居リマスノハ、二案ニゴザイマシテ、一ハ衆議院議員選舉法ノ別表ノ末項ヲ削除スルト云フ件、一ツハ

吳ト佐世保ノ兩地ヲ獨立選舉區ニスルト云フ此一ツニゴザイマス、之ヲ束ネテ報告ヲ致シマス、先ツ此別表ノ末項削除ノ件ヨリ申上ゲマスガ、是ハ委員會ニ於キマシテ一人ノ異議者ナク、原奏ヲ可決致シマシタ、簡單ニ成マシマスレバ、是デモ宜シノデアリマスガ、事苟モ法律上ニ於キマシテモ、最モ重大ナルトコトノ衆議院議員選舉法ノ改正デアリマスが故ニ、委員會ニ於キマシテ、之ヲ可決致シマシタ理由ヲ明カニシテ置クト云フ必要ガアルト考ヘマスルニ依シテ、茲ニ數言ヲ費シマス、世ノ進運ニ從ヒマシテ人口ガ段々増加シテ參ルノデアリマス、今日ニ於キマシテモ我帝國ニ於テ一年ニ五十万、乃至六十万ノ人口が増加シツ、アルノデアリマス、將來ニ於キマシテハ、尙此増加ノ割合が多クナシテ來ル

ダラウト思ヒマス、假ニ六十万ト致シマシテモ、十箇年ニハ六百万人ニアリマス、現行衆議院議員ノ數ハ法律ニコソ其標準ガ明記シテアリマセヌケレドモ、市部ハ二万人以上、郡部ハ十三万人ヲ以テ、議員一人ヲ出スト云フコトニナシテ居ルノデアリマス、所ガ八百

万人が人口ガ増シテモ、此衆議院選舉法ノ別表ヲ更正セヌト云フコトハ、此標準ヲ變ヘレバ格別ニアリマスガ、此標準ヲ此儘ニシテ置イテ、サウシテ六万人増加シテモ、別表ヲ更正セヌト云フコトハ、甚ダ不都合デハナイカ尤モ此不都合モ各選舉區ノ人口が平均シテ平等ニ増加致シマスナラバ、稍々不都合ヲ忍ブコトモ出來マセウケレドモ、世ノ中ガ段々増加シテ參リマシテ、人事が繁多ニナルニ從シテ、一方ニ於テハ非常ニ人口ノ増加コトモアリ、又他ノ一方ニ於テハ之ニ反シテ人口ガ減ルト云フ所モアラウト思ヒマス、現ニ僅カニ數十戸アルトコロノ漁村若クハ農村デモ、一朝鐵道が開ケマスルカ、或ハ港灣が出來マスカ、又ハ製造所ヲ設ケラル、カ、又何カ役所デモ出來ルト云フタメニ、數年ヲ出テズシテ、忽チニ數万ノ人口ニ増加スルト云フ實例ニ乏シクナインデアリマス、現ニ

○政府委員吉原三郎君(二百四十六番) 簡單ニ反對ノ意見ヲ表明致シマス
○議長(松田正久君) マア御待チナサイ、議事日程第十一衆議院議員選舉法中改正法律案ノ第一讀會ヲ繼續致シマス
(政府委員吉原三郎君登壇)
○政府委員吉原三郎君(二百四十六番) 唯今問題ニナシテ居リマスル議案ニ於キマシテハ、委員會ニ於テ詳シク申上ゲテ置キマシタ、諄々シクハ申上ゲマセヌガ、要シマスルニ、此人口ノ増減ニ依シテ之ヲ致スト云フコトニナシテ、實ハ非常ナ煩雜ニ堪ヘナイト云フ處、ガラウト思ヒマス、本年告示ニナリマシタ人口ニ依リマシテモ、或ハ市ニ於テ二万以下ニ下シテ居ル所モゴザイマシ、又現在ノ此十三万ト云コトニナリマスルト、郡部モ澤山人が殖エルト云フヤウナ次ニナリマスルカラ、是等ノ煩惱避ケマシテ、實際ノ必要上ヨリ此附記ト云フモガ、設ケテアリマスルノデ、至極適當ナルコト、考ヘマスカラ、之ヲ削除スルコトニ賛成致スコトハ出來マセヌノデアリマス、ソレカラ次ノ日程ニアリマスル別表ノ改正ノコトハ前

モ出來テ居ルト云フ有様デゴザイマス、又之ニ反シテ假ニ四萬アルトコロノ人口ガ、何カノ事情ノタメニ、是が半分ニ減ルト云ヒマシテモ、十年間ハ今日ノ儘アリマスレバ、ヤハリ一人ノ衆議院議員ヲ出スルト云フコトニナル、又郡部ニ於キマシテモ、サウ云フ例ガイクラモアラウト思ヒマス、一方ニ於キマシテハ、非常ニ人口が増ス、増シテモヤハリ議員ハ十年動カスコトハ出來ナイ、又一方ニ於テハ、人口が非常ニ減ル、減シテモ多數ノ衆議院議員ヲ選出スルト云フヤウナ不公平が出來ルガラウト思ヒマス、即チ甲ノ市ニ於テハ五万以上ノ人口ガアラモ、一人ノ議員ヲ出スコトモ出來ズ、乙ノ市ニ於テハ二万人アラモ、議員ヲ一人出スルト云フヤウナ不公平ノ事が生ジテ來ルノデアリマス、殊ニ駭々乎トシテ百事膨脹の進ミツ、アルトコロノ我帝國ニ於キマシテ、此十箇年ノ長イ間ニハ、國ノ有様が非常ニ變シテ参リマスルシ、又各地方ノ盛衰ノ狀況ニ於テモ、種々様々ノ變化ノ多イコトニアリマスガ故ニ、之ヲ十箇年ノ間据置クト云フコトハ、甚ダ不都合ナ不當ナコトデアラウト思ヒマス、又單ニ法律ノ上カラ考ヘマシテモ、其法律ニ此法律ハ十箇年ノ間ハ改正ヲシナイト云フコトヲ附ケテ置クト云フコトハ、如何ニモオカシナ話テ、謂ハレノナイコト、考ヘマス、斯ウ云フヤウナ事情ヲ以チマシテ、即チ事實上ニ於テセ、道理上ニ於テモ、此十箇年ノ制限ヲ置クト云フコトハ、甚ダ不都合デアル、人口ノ増減ニ從シテ、適當ノ時期ニ於テ別表ヲ更正スルト云フコトハ、相當デアルト云フ理由ヲ以テ、委員會ニ於テハ可決ヲ致シタ次第ニアリマス、斯ノ如ク事理明白ナルモノデコサイマスカラ、政府ニ於テモ定メテ贊成デアラウト思ヒノ外、政府ハ是ニ反對デゴザイマシタ、併ナガラ其反対ハ極メテ弱イ、極々軟ナ反対デアリマス、其大要ヲ申シマスルト云フト、此末項ヲ削除スルト云フト、年々議員ノ増減ト云フコトガ持上シテ來ル、サウスルト隨分ウルサイ面倒デアルカラ、マア程度問題デハアルガ、十箇年位ハ据置イタ方が宜カラウト云フ理由ニ過ギスノデアリマス、斯ウ云フ事情デゴザイマスカラ、ドウカ委員會ノ決議通、本會ニ於テモ可決セラレシコトヲ望ミマス、ソレカラ其次ノハ極メテ簡單デアリマス、是ハ此佐世保ト吳が現在大キナ市ニナシテ居リマシテ、各々五万以上ノ人口ヲ有シテ居ルノデアリマスカラ、十年ノ制限が取レタ以上ハ、當然此兩市ハ獨立選舉區ニシテ宜シイ、斯ウ云フコトデ委員會ニ於キマシテハ、全會一致ヲ以テ可決シタノデアリマス、故ニドウカ此案ニモ御贊成ヲ希望致シマス

○望月長夫君(二百四十六番) 簡單ニ反對ノ意見ヲ表明致シマス

○議長(松田正久君) マア御待チナサイ、議事日程第十一衆議院議員選舉法中改正法律案ノ第一讀會ヲ繼續致シマス

(政府委員吉原三郎君登壇)

案ニ對スル意見ノ自然ノ結果ト致シマシテ同シク賛成ヲ致スコトヘ出來マセカラ、併セ

テ反對ノ意志ヲ表不致シテ置キマス

○望月長夫君(二百四十六番) 最早唯今ノ政府委員ノ演説テ十分アラウト思

フ、憲法附屬ノ法律ハ、餘程重大ナル理由ガナケレバ、逕ニ變更ヲ試ムキモノデハナ

イ、然ルニ本案ハ單ニ佐世保ト吳トガ、最初標準トナツタ人口ガ出來タカラ、之ニ選舉

權ヲ與ヘタイト云フノガ主ニナシテ、サウシテ遂ニ十年ト云フ規定ヲ改メルト云フコトニナッ

タ、併ナガラ選舉法全部ヲ能ク調べテ見マスレバ、今日ニ於テハ既ニ佐世保吳バカリデ

ハナクシテ、他ニモ或ハ十二万ト云フヤウナ標準ニ、狂ヒヨ生ジテ居ル所モ澤山アラウト

思フ、然ルニ單ニ斯ノ如クニ一二箇所ヲ抽出シテ其場所毎ニ改正ヲ加ヘテ往クト云フ

コトヘ、此重大ナル憲法附屬ノ法律ヲ運行スル上ニ於テ、甚ダ輕躁ニ失スルト私ハ考ヘ

ル、勿論當年ハ此衆議院議員選舉法ノ改正ニ付イテ、兩黨カラ餘程重大ノ案ガ出ル

ヤウニモ承フテ居リマスルカラ、其際ニハ斯ノ如キ問題モヤハリ併セテ研究セヌル、モノト考

ヘルモノハ、既ニ最早議場ニ現ハレナイコトニ確定サレタモノニアルト見ア差支ナイノデアリ

マスカラ、唯今此緊要ナル趣意ノ變更案フ——是ノミヲ此所デ確定スルト云フコトハ、

甚ダ宜シクナイト思フ、議會ノ會期ノ切迫ニ際シテ法律案ト云ハズ、建議案ト云ハズ、

追々御土產——惡口ノ上ニ言ハレル御土產ト云フ案ガ、兩ノ如ク現ハレテ居リマスケレ

ドモ、是ハ宜シク議場ニ於テ宜シク取捨サレテ重大ナラサル以上ハ、同意ヲ與ヘナイ方ガ

宣イト思ヒマス、私ハ反對ヲ致シマス

○恒松隆慶君(百五十九番) 本案ハ改正ノ必要ガアルト思ヒマスカラ、直チニ二讀

會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

(「贊成々々ト呼フ者アリ」)

○議長(松田正久君) 恒松君ヨリ本案ニ付イテ、直チニ第二讀會ヲ開ク動議ガ出テ

ハ起立ヲ望ミマス

(「異議ナシ」「反對デアル」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラバ決ヲ採リマス、直チニ第二讀會ヲ開ク動議ガ出テ

起立者 多數

(「贊成々々ト呼フ者アリ」)

○議長(松田正久君) 恒松君ヨリ本案ニ付イテ、直チニ第二讀會ヲ開ク動議ガ出テ

ハ起立ヲ望ミマス

(「異議ナシ」「反對デアル」ト呼フ者アリ)

衆議院議員選舉法中改正法律案

○恒松隆慶君(百五十九番) 委員長ノ報告通御異議ナシ

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通御異議ナシ

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通御異議ナシ

(「異議ナシ」「反對デアル」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラバ委員長ノ報告通御異議ナシ

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通御異議ナシ

(「異議ナシ」「反對デアル」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ、讀會ヲ省略シテ全部ヲ議題ニ供シマス

付シマス

第一讀會

第二讀會

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

衆議院議員選舉法中改正法律案

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ委員長ノ報告通御異議ナシ

日程ノ第十一、衆議院議員選舉法中改正法律案ノ第一讀會ヲ繼續致シマス

日程ノ第十二、衆議院議員選舉法中改正法律案(渡邊)

第一讀會ノ續

○恒松隆慶君(百五十九番) 前ノが決議致シマシタ以上ハ、勢ヒ是モ讀會省略ヲ以

テ確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 恒松君ノ讀會省略ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ、讀會ヲ省略シテ全部ヲ議題ニ供シマス

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通御異議ナシ

イ、即チ或場合ニ於テハ、其活用ノ途ヲ與ヘルト云フコトハ、現行ノ法が適當アルト云フノテ、提出案ヲ否決致シマシタ、而シテ尙提出案ノ中ノ最モ重要ナル事項ハ、何デアルカト云ヘバ、即チ彼ノ豫防法ハ、即チ今ヨリ六七年前ノ法律デゴザイマシテ、「ベスト」ノ如キモノニ對シテハ、名ハ書イテアルケレドモ、其方法ニ付イテハ、十分ニナッテ居ラヌカラシテ、其流行病ニ際スルトキノ處分方法、即チ流行地ノ「ペストハウス」其「ペスト」ノ家ト云フヤウナモノニ對シテハ、處分方法ヲ規定シマシタ、ソレニ付イテハ、手當金ヲ下付スルト云フコトヲ法律デ極メマシタ次第デゴザイマス、其手當金ヲ下付スルニ付イテハ、是ハ補償ニアラズシテ、手當金アルカラシテ、其所有者ニ下付スル、併シ不動産ノコトニアラテ、書入レソレ等ノタメニ、債權ノ設定ガアレバ、即チ其債權者ニ對シテ通知ヲ爲シ、並ニ其承諾若クハ連署ヲ以テナケレバ、手當ヲ受ケルコトガ出來ヌト云フコトハ、省令ヲ以テ、命令ヲ以テ定ムルコトニ相談ヲ付ケマシタ、政府ニ於テモ、其意ヲ以テ命令ヲ發スルト云フコトデゴザイマシタカラ、別段ニ法律デハ、規定シマセヌケレドモ、遺憾ナガブ此法律カラ、取除ケラレテ修正ニナッタ云フコトヲ只今ヨリテアラテ、書入レソレ等ノタメニ、債權ノ設定ガアレバ、即チ其債權者ニ對シテ通知ヲ爲シ、並ニ其承諾若クハ連署ヲ以テナケレバ、手當ヲ受ケルコトガ出來ヌト云フコトハ、是ニ對シテハ、本年ノ七月一日ヨリ施行スルダケノ施行期限ヲ付シタル次第デゴザイマス、其他ハ總テ字句ノ修正、條項ノ整理デゴザイマスカラ、御質問ガアレバ私ノ席ヨリ御答ヲ致シマス、要領ハ此通デアリマス。

(山根正次君登壇)

(「簡單ニ願ヒマス」ト呼フ者アリ)

○山根正次君(三百五十八番) 極々簡單ニヤリマスカラ、ドウカ御清聴ヲ願ヒマス(「委員長報告ノ通デ宜シイ」呼フ者アリ)少シ待テ貰ヒタク、只今委員長ヨリ御報告ニナリマシタガ、本案ニ付キマシテハドウカ委員會ノ修正意見ニ大概私モ同意ヲ表シタノデアリマスル、併シ此傳染病ノ豫防ト云フコトハ、一日モ等閑ニ付シテハナラヌモノデアリマスカラ、(「ソレハ皆知テ居ル」ト呼フ者アリ)御存知ゴザイマセウケレドモ、尙申シ

マスルガ、此案がドウカ速ニ決セラレントコトヲ希望シマスルノハ、御存シノ如ク此「ペスト」ナルモノハ、蘭賣アドニアル思ヒノ外、既ニ東京府下ニモ其病毒ガ參ツタノデアリマシテ、本案ノ改正が最モ必要ニナシテ参ツタノデアリマス、ドウカ宜シク願フノデアリマス、ソレカラ私ハ此癩病ト云フモノヲ、此法案ノ中カラ取除ケレタト云フコトニ對シマシテハ、最モ遺憾トスル所デアリマスル、ナゼカナラハ此癩病ノ多イト云フコトハ、實ニ委員會アモ澤山ニ述ベマシタカラ述ベマセヌ、既ニ皆サンガ此傳染病豫防法改正法律案ノ委員會ノ決議ヲ——決議ハナイ、會議錄ヲ御讀ミナフテ居ルコト、思ヒマスカラ、略シマスガ、非常ニ多イ次第アリマスルカラシテ、私ハ此法律ノ中ニ敢テ加ヘタクテ差支ナシ、縱合

急性デアラウガ慢性デアラウガ、其病氣ヲ豫防スル上ニ於テ目的ヲ達シサヘスレバ宜イノアルカラ、此中ニ加ヘテモ少シモ差支ナイコト、私ハ信ズルノデアリマス、政府ノ方テハ或ヘ金ガ要ルカラ此中ヘ加ヘテハ宜シクアルマイ、金ガ要ルカラト云フテ待テバ、例ヘバ大金ノ借金ラシテ居タク、ソレガ利子ガ付ク——大變ナ利子ガ付クカラ、待ツタラ宜カラウト云フテ拂ハズニ置クト、遂ニ身代限リシナケレバナラヌ、傳染病ヲ豫防スルニ、即チ相當ノ手續キラセズニ、何モ多イカラ、錢ガ掛ルカラヤラズニ置クガ宜カラウト云フ、トウカ日本中ノ人間が皆癩病血統ニナルカ分ラナイ、ソレマテ待ツテ居ラル、モノナシ、政府ニ任セテ置イテハ何時ノ時ニ於テヨリアルカ分ラヌノアルガ故ニ、早ク此中ヘ加ヘ

テ置イタフ、或ハ調査ヲスルトカ何カニ對シテモ、ナカク手間ノ掛カルモノアラウ思ヒマスカラ、此主務大臣ニ之ヲ任セルト云フコトニナッテ居ルカラ追ニ調査ヲシテ、ソレカラ豫防ノ法ヲ政府ア立テルノデアリマスカラ、別ニ之ヲ加ヘテモ惡ルイ事ハアルマイト信シマス、ソレデ私ハ加ヘタノアリマスガ、其恐ルベキ事等ニ付イテハ、更ニ今日申シマセヌケレドモ、遺憾ナガブ此法律カラ取除ケラレテ修正ニナッタ云フコトヲ只今茲ニ一言ラスルノデアリマス、終ニ臨ンテ私ハ申シマスルガ、下ノ關ノ醫者ノ河野敏衛ト云フ人カラ今手紙ガ來タ、傳染病ノ豫防法ノ中ヘ癩病ヲ加フルト云フコトハ非常ニ結構デアル、之ガ實ニ我國民ヲ害シ、アルト云フコトハ、甚ノノアルト云フコトヲ只今申シテ來マシタ、或ハ風呂場ニ於テ一緒ニ、混浴ヲシテモ、一ノ取締ガナイ、宿屋ニ一緒ニ旅人デ泊ジテモ、ソレニ對シテ消毒ガナイト云フコトヲ皆書イテ來テ居リマス、是等ノコトハ私ハ既ニ委員會ニ於テ申シテ置キマシタケレドモ、實ニ危險ナル所ノ病氣デゴザイマスルガ故ニ、防グ所ノ方法ヲ立ツテ、此中ヘ入レテモ差支ナイト信ズルノデアリマス、併ナガラ、之ヲ本案ニ入れ、バ成立シマセヌカラ、委員長報告通御賛成下サレバ仕合セニ存ジマス(多田作兵衛君「アナタノハドチカ、原案カ委員長報告通ガ」ト呼フ)私ハ此法案が成立スズニ、癩病ヲ取退ケルコトニナリマスレバ、委員長報告通ニ、後ハ御賛成ヲ願ヒタク、ソレト云フモノハ「ペスト」ノ豫防ノコトガ書イテアリマスカラ、之ハ非常ニ急場ヲ要スルコトデアリマス

○多田作兵衛君(百三十二番) チヨダ質問シマス、癩病ト云フコトヲ御加ヘナサルト云フ原案ノ説テ、委員長報告ニ反対ナサルノデゴザイマスカ

○山根正次君(三百五十八番) 私ハ斯ウ申シタノデス

○多田作兵衛君(百三十二番) 委員長報告通ナラバ質問ハ致シマセヌ

○山根正次君(三百五十八番) 癡病ヲ加ヘルコトガ出來ナクテモ、委員長ノ報告通

デモ差支ナシ併シ之ヲ加ヘルコトガ出來マスナラ非常ニ仕合セゴザイマス、分リマシタラウト思ヒマス
○恒松隆慶君(百五十九番) 本案ハドウカ癩病ヲ除イテアレバトゴザイマスガ、之ハ除イテ調査スルモノトシテ、先づ委員長ノ報告が成立シテモノト致シテ、ドウカ讀會省略ア確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 賛成タク(「贊成タク」ト呼フ者アリ)
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 異議ガナケレバ讀會省略シ、全部ヲ議題ニ供シマス

傳染病豫防法中改正法律案

確定議

○山根正次君(三百五十八番) 私ハ癩病ヲ加ヘルコトヲ望ムノアリマス

(「贊成タク」ト呼フ者アリ)
(「分リマシタク」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 採決ヲシマス、山根正次君ノ原案第一條ヲ第一條ノ一トシ

次ニ左ノ一條ヲ加フト云フトコロヲ先キニ決ヲ採リマス、此原案ニ賛成者ノ起立ヲ望

ミマス

○議長(松田正久君) 少數

(委員長報告通リ「ト呼フモノアリ」)

○議長(松田正久君) 他ハ委員長報告通り御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フモノアリ)

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ總テ委員長報告通り決定ヲ致シス、——識事日程第十六、登錄稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ繼續シ、委員長ヨリ報告ヲ致シマス——河原林義雄君

第十六 登錄稅法中改正法律案(横井時 雄君外二名提出)

第一讀會ノ續(委員長)

(河原林義雄君登壇)

○河原林義雄君(百二十一番) 登錄稅法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告ヲ致シマス、本案ハ現行ノ登錄稅法ノ第一條第一項第三號ニ、但書ヲ付シテ、本稅ノ例外ニ置キタイト云フ 案デゴザイマス、第三號ハ御承知ノ通ニ「遺言贈與其他無償名義ニ因ル所ノ所有權ノ取得不動產價格千分ノ四十」ト規定ガアリマス、然ルニ此民法ノ第三十四條ニアルトコロノ、祭祀、宗教、慈善、學術、技藝、其他公益ニ關係スル社團、又ハ財團ノ營利ヲ目的トシマセヌトコロノ、法人ガ、寄附行為ニ依シテ受ケマシタモノモ、ヤハリ此本稅ノ課スルコトニナダニ居リマス、ソレハ甚ダ權衡ヲ失フガタメニ、此等ノモノニ對シテハ、千分ノ十二減ジタイト、斯ウ云フ法案デゴザイマス、委員會ハ此趣意ハ可

ト認メテ、全會一致アリテ、然ルニ此民法ノ二十四條ニハ、民法施行法ノ第二十八條ニ、民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社寺院祠宇及佛堂ニハ之レヲ適用セズ」とゴス。○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ簡單ナ案デゴザイマス、ドウカ讀會省略デ願ヒマス。○議長(松田正久君) 恵松君ノ讀會省略ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ讀會ヲ省略シテ、全部ヲ議題ニ供シマス

登錄稅法中改正法律案

確定議

○恵松隆慶君(百五十九番) 委員長報告通

○議長(松田正久君) 委員長報告通御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ委員長報告通リ確定採用セラレマス

識事日程第十七、畜牛結核病豫防法中改正法律案ノ第一讀ヲ繼續シ、委員長ヨリ報告致シマス——奥野市次郎君

第十七 畜牛結核病豫防法中改正法律案(宮本嘉樂君外五名提出)

第一讀會ノ續(委員長)

(奥野市次郎君登壇)

○奥野市次郎君(百五十四番) 畜牛結核病豫防法中改正法律案ノ委員會ノ經

過ヲ御報告致シマスルガ、委員會ニ於テハ原案ノ中二三ノ修正ヲ致シマシテ、可決ヲ致シマシタ、其修正ヲ致シマシタ所ハ、第一條ノ結核病ト云フ上ノ方ニ、重症ト云フ二字ヲ加ヘマシタノデ、是マデハ輕症疑症ト云フモノモ検査ヲシテ居ツタノアリマシタケレドモ、此改正ニ依リマスルト、輕症疑症ト云フモノニ闘シテ、事柄が除カレテアリマスカラ、結核病ノ上ヘ「重症」ノ二字ヲ如ヘマシタノデ、ソレカラ第一條ノ「重症結核」ト云フ下ヘ「病」ヲ加ヘマシタ、是ハ此法律ノ全體ニ皆「病」ノ字が加ハヌアリマシタカラ、他ノ條トノ權限ヲ得ルタメニ加ヘタダケノコトデアリマス、ソレカラ「ツベルクリン」ノ注射ニ依リ、攝氏一度トアリマスノフ、ヤハリ現行法ノ一度五分ト致シマシタ、是ハ一度五分ノ方が適當シテ居ルノデ、修正ヲ致シマシタ、ソコニ「微菌検査」ノ結果ニ據り決定ス」ト云フコトガアツタデスガ、斯様ニ致シマスト黴菌ノ検査ヲスルタメニ、各地方ニ顯微鏡ノ設備ヲ要スルコトニナダ、之ガタメニ費用ノ支出ガ増シテ参リマスカラ、サウ云フ病ヲ除クガタメニ、又實際行フト云フコトモムツカシイト云フコトヲ、政府委員ナドカラモ聞キマシタカラ、之ヲ削リマシテ、「症狀」ト云フ上ニ「臨床上」ノ三字ヲ加ヘテ、「臨床上」症狀重大ナルモノ」ト云フコトニ、改正ヲ加ヘマシタ、第四條ノ「重症結核病ニ罹リ」ト云フ下ノ方ヘ「又ハ」其疑アル」

ドモ、根本ニ於テ政府ト委員會トハ見ル所ヲ異ニシテ居リマス、政府ハ之ニハ贊成が出来ヌル所ハマルデ根本ニ於テ違ツテ居ルノデアル、政府ハ現ニイロイロノ事が現行法ニ書イテアルケレドモ、現行法ニ書イテアル通實行サレテ居ラヌノデアル、當業者ハ誠ニ迷惑ヲスル、迷惑ヲスルノミナラズ、實行デモサレ、バ宜イケレドモ、實行セラレバ徒法ハ、以テ法トスルニ足ラナイ、サウ云フ法ヲ存シテ置クヨリ、實行ノ出來ル位ノ範圍ニ於テ改正ヲアリト云フ表明ハアリマシタケレドモ、之ニ拘ハラズ、多數ヲ以テ原案ヲ此通修正致シテ、可決致シマシタノアリマスカラ、ドウカ本院ニ於キマシテモ御贊同アランコトヲ希望致シ

第十六 登錄稅法中改正法律案(横井時 雄君外二名提出)

第一讀會ノ續(委員長)

(河原林義雄君登壇)

○河原林義雄君(百二十一番) 登錄稅法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告ヲ致シマス、本案ハ現行ノ登錄稅法ノ第一條第一項第三號ニ、但書ヲ付シテ、本稅ノ例外ニ置キタイト云フ 案デゴザイマス、第三號ハ御承知ノ通ニ「遺言贈與其他無償名義ニ因ル所ノ所有權ノ取得不動產價格千分ノ四十」ト規定ガアリマス、然ルニ此民法ノ第三十四條ニアルトコロノ、祭祀、宗教、慈善、學術、技藝、其他公益ニ關係スル社團、又ハ財團ノ營利ヲ目的トシマセヌトコロノ、法人ガ、寄附行為ニ依シテ受ケマシタモノモ、ヤハリ此本稅ノ課スルコトニナダニ居リマス、ソレハ甚ダ權衡ヲ失フガタメニ、此等ノモノニ對シテハ、千分ノ十二減ジタイト、斯ウ云フ法案デゴザイマス、委員會ハ此趣意ハ可

ト認メテ、全會一致アリテ、然ルニ此民法ノ二十四條ニハ、民法施行法ノ第二十八條ニ、民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社寺院祠宇及佛堂ニハ之レヲ適用セズ」とゴス。○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ簡單ナ案デゴザイマス、ドウカ讀會省略デ願ヒマス。○議長(松田正久君) 恵松君ノ讀會省略ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ讀會ヲ省略シテ、全部ヲ議題ニ供シマス

登錄稅法中改正法律案

確定議

○議長(松田正久君) 望月長夫君

○議長(松田正久君) 望月長夫君(二百四十六番) 議長

○議長(松田正久君) 意見ガアリマスカ

○議長(松田正久君) 反對演說ノ通告ガシテアリマス

○議長(松田正久君) 通告ガシテアルカラ今呼ビマシタ

○議長(松田正久君) 本案ハ餘リニ多クノ人ガ承知スル必要ノ少ナイ議

案ニアラ、或ハ此議案ノ性質ノ明瞭ナラザル中ニ、否決若クハ可決サル、コトハ甚ダ遺憾ニ存ジマスカラ、私ハ極メテ簡単ニ私ノ所見ヲ述ベタイト思ヒマス、「謹聽々々」ト呼フ者アリ)此案ニ付キマシテハ、隨分當業者ノ陳情モ詳シク聞キマシタ、一方ニ於テ又政府ノ意見モ詳シク聞き、更ニ折衝ノ任ニモ當リマシテ、隨分意見モ闘ハシテ見タノデアリマス、ソレデ私ノ腦髓ニ映ズルトコロニ依リマスレバ、當業者ノ苦情モ——苦情ト云フ言葉ガ、或ハ適當テナイ程、耳ヲ傾ケテ聞クベキ點モアツカコトヲ承認致シマス、サリナガラ反覆政府ノ言フトコロト、當業者ノ言フトコロト比較致シテ見マシテ、最後三及ンテ、遂ニ私ヲシテ未ダ此法ヲ改正シ——此法ノ根本精神ヲ改正シ、此法ヲシテ全ク徒法タラシムルマテノ改正ヲ加ヘル案ニ、同意ヲ致スコトが出來ナイ結果ニ到達致シマシタ、其第一ノ理由ハ本法ハ未ダ改正ノ時機ニ達シナイ、是が私ノ第一ノ理由ナシテ、御承知ノ如クニ、此法律ハ明治三十六年ノ七月ニ、初メテ實施ヲ致シテ、ソレヨリ以來極メテ日ヲ經ルコトガ淺イノデ、而モ之が何十万ト云フ如キ、——現在ノ牛ハ百二十何万ト云フ譯デゴザイマセウガ、兎ニモ角ニモ此法律ノ範圍ニ適入シテ參ル牛ハ、二十三万幾フト云フコトロヘ持ッテ往クテ、此法ヲ實行致シテ、サウシテソレガ唯僅カニ一年ヨリ過經致シテ居ラヌノデゴザイマスカラ、果シテ此法ガ政府ノ云フガ如キ效能ヲ現スカ、將又當業者ノ云フガ如キ無效ノモノデアルカト云フコトヲ判決致スニハ、誠ニ其材料ガ乏シイノデ、段々政府ニ要求致シテ見マシテモ、明治三十六八年ニ第一ノ検査ヲ行ヒ「ツベルクリン」ノ注射ヲ行シ統計ヲ有シテ居ルハカリテ、其次ニ三十七年ノ成績ニ付イテハ、政府ニ於テ何等ノ材料モ未ダ集マジテ居ラヌ、從ツテ當業者ノ方カラ申シテ參ル方モ、實ハ個人々々ノ小サイトコロノ事柄ハ申シテ參リマスルケレドモ、綜合シテ結果ヲ判断スルニ足ルタケノ材料ハ、實ハ提供シナイノデ、勿論斯ノ如キ法律ヲ實施致シマスル際ニハ、執法者ガ——法ヲ執行フ人が不馴デアルガタメニ、又ハ之ヲ執行スル方法ガ整備セザルガタメニ、一面ニ於テ多少執行ニ満足ヲ得ナシモ生ジマセウ、サリナガラ又他ノ一面ニ於テハ、斯ノ如キ法律ヲ執行スル際ニハ、人民ノ苦情ノ多イト云フコトモ、亦覺悟ヲセネバナラスト考ヘル(「ノウ」)ト呼フ者アリ)人間ノ身體ニ最モ重要ナル傳染病豫防法ノ施行ニ際シマシテ、未ダ今日ニナシテモ御前ハ赤痢病アルトカ、御前ノ家族ハ虎列拉病アルトカ云フコトヲ、正直ニ告ゲ、且法律上ノ居ラスト云フ御醫者ハ流行ラスト云フ實狀デ、人間ノ傳染病デ、人間ノ衛生上ニモ其位ノ實狀デ……然ルニ斯ノ如キ(「此案ハ牛ノ索ダ」ト呼フ者アリ)然ルニ牛ノヤウナ案ニ付イテ苦情ガアルト云フコトハ、之ハ餘儀ナイ譯デハアルカ、ソレガ苦情ガ、即チ道理アルカト云フコトハ、ドウシテモ判斷が出來ナイ、私ハ寧ロ之ハ道理デハナイト判斷スルガ相當デアラウ、總ア唯今マデ集マジテ材料ニ於テハ、相當デアラウト思フ、勿論裁判所テ物ヲ裁判致シマシテモ、其判決が必シモ眞理ニ適合スルモノデナシ、又醫者ガ人間ノ身體ヲ診斷致シマシテモ、人間ノ病氣ヲ診斷致シマシテモ、百ノモノガ百當ルト云フ譯ニハ參ラヌコトハ勿論デアルカラ、一ツヤーツノ間違ヲ持出シテ、此法ヲ是非スルト云フノトハ、誠ニ不當ナ話アラウト私ハ考ヘル、要スルニ第一ニ於テ、此法ハ未ダ試験サレナイ法アル、此法ノ惡ルイト云フコトヲ試験サレナイ法アルノミナラズ、僅ニ三年バカリ前ニ於テ、衆議院ガ最モ歎迎ヲ致シ、特ニ恵松君ヲ勞シテ、三度マデ緊急動議ヲ喚起シテ、可決致シタ如キ案ヲ輕ミシク直チニ改正ラスルト云フコトハ宜シタナイト云フノガ第一ノ理由アルノデス、第二ニハ之ハ御承知ガゴザイマセウガ、現行豫防法デハ、豫防検査ノ結果、牛ヲ四段ニ區別シテ、健康ノモノハ無論別ネテ置キマスガ、又重症ノヤツハ撲殺ヲ致シマスルガ、其中間ノ結核ニハ相違ナイケレドモ、未ダ輕

イト云フ——之ハモウ結核ト云フ判斷ガ付イテ、結核デアルガ、未ダ輕イト云フノド、ソレカラドウモ健康新ナナイガ、結核デアルカナイカ疑ハシイ、即チ重症、輕症、疑症、健康新云フ區別ヲ致シテ居シテ、サウシテ此重症疑症ト云フ中間ノモノガ、問題ニナルノデゴザイマスルガ、唯今ノ此改正ノ法律ニ依リマスルト、重症ダケハ撲殺ヲスルガ、輕症以下ハ追放シテ置ク、之ハモウ構ハナイノデアル、斯ウ云フノガ、牛疫ノ恐ルベキコトヲ認メ、其豫防ノ方法ハ法律ヲ以テヤラナケレバナラナイト云フコトヲモ認メテ、サウシテ此結核ニ罹ルニ相違ナイケレドモ、輕症デアルト云フ部分モ宜イ、牛ノ結核病ハ傳染ノ力ヲ有ツテ居シテモ、之ヲ取締ル必要ガナイトカ、斯様ニ根本ノ理窟ニ依シテ、此豫防法ヲ否認サル、ナラバ格別デアルガ、牛疫ノ恐ルベキコトヲ認メ、其豫防ノ方法ハ法律ヲ以テヤラナケレバナラナイト云フコトヲモ認メテ、サウシテ此結核ニ罹ルニ相違ナイケレドモ、輕症ト云フ部分ハ、總テ打チヤツテ置クト云フコトニ致スノハ、前ニ私が申シマシタ、即チ此法律ヲシテ全ク徒法タラシムルト同一デアルト云フコトヲ、私ガ云フノデス、過日モ政府委員ガ統計ノ数ヲ述ベマシタトキニ、定メシ御記憶ガゴザイマセウカ、二十二万餘頭ノ検査ヲ三十年ニ行シタキニ、重症トシテ撲殺シタノガ五百七十二頭、サウシテ、輕症ト云フモノガ一万頭アルデス、デ僅カニ五百七十二頭ヲ曆シテ、此一万ト云フ結核ニ罹ル牛ヲ放任シテ置クト云フコトヲアツタナラバ、此法律ハナイモ同様デアルト私ハ考ヘル、「御尤」ト呼フ者アリ)若シ結核病ヲ恐ルベキモノト致シ、之ヲ豫防スル方法が必要デアルト云フナラバ、斯ノ如キ點ニ向シテ、成ベク有效ナル豫防ヲ實行スルコトノ出來ルヤウニ致シテ置カナケレバ、法ノ精神ハ全ク存在シナイト同一ニナルト、私ハ考ヘルノデ、勿論此輕症ト云フ牛ニ付イテ、政府ノ取締ガ十分行届イテ居ナイ、法ノ望ムが如クニ行ハレテ居ナイ、又間違が屢アルトスウ云フノガ、此問題ニ對スル非難ノ燒點デアルノデゴザイマスガ、ソレデアリマスルカラ、種々ノ苦情モ起リマセウシ、又自ラ其必要ナルコトヲ認メテ、即チ紳士ガ牛ヲナブツテ居ルノハ、隨分澤山アリマスルガ、從來ハ餘程智識ノナイモノガ、斯ウ云フ牛ヲナブルヤウナ商賣ヲ實ハ致シテ居タト、私ハ記憶シテ居ル、多クノ場合ニ於テ、ソレデアリマスルカラ、種々ノ苦情モ起リマセウシ、又自ラ其必要ナルコトヲ認メテ、即チ自營ノ——已ニ自ラ營ムノ程度ニ達スルマデニハ、隨分政府が相當ノ注意ヲ致シマシテモ、隅ノ隅マデ行涉ルト云フ譯ニハ參リマスマイガ、此法ヲ存シテ少ナクモ輕症疑症ト云フモノハ、隔離策ヲスル、斯ウ云フ取締ノ方法ガアレバ、之ヲ打チヤツテ、追放シテ横行スルニ任シテ置クトノトハ、雷壇ノ相違ガアルト、私ハ信ジテ居ル、ソコガ即チ大變區別ノ來ル所デ、諸君ガ若シモデゴザイマス、盜賊が絶ヘヌカラ刑罰ハ不要デアル、裁判所ハ不要デアルト云フナラバ格別デアルケレドモ、即チ或ハ實行ノ十分出來テ居ナイ、苟モ免カルト云フモノガアルノ見テ、法ハ直チニ徒法アルト云フ如キ判斷ヲ下シテ、サウシテ法ヲ廢止スルト云フコトニナレバ、凡ソ隅ノ隅マデ、一ノ弊害ナク一ノ通ル、所ナク行ハル、法ハナイト信ジマスル、此ノ如キハ餘儀ナキ點デアルト私ハ信ジ、尙此法ノ有效ナルコトヲ信シマスガ故ニ、今日マテノ政府ノ執行方法ノ上ニ遺憾ガアツカ點ハ、深ク政府ニ其矯正ヲ望シテ其法ヲ十分ニ改正ヲサセルト云フコトハ、私ガ滿腹ノ希望テゴザイマスルガ、立法事業トシテ、直チニ此法ヲ改メルト云フコトハ、未ダ輕忽タルヲ免カレヌト確信ヲ致ス、殊ニ今日ハ幸ヒ日本デハ、此牛疫ト云フモノガ外國ノ如クニ激シクナツテ居ラヌカラ、唯致シマスルデ、此際之ヲ我慢シテヤレバ、即チ病シテ其傳播ノ未タ激シカラサルヲ防

タノアルカラ、輒ク行ハレルコトアルガ、之ヲ若シ此際打チャフ置イテ、非常ニ大キモノニシテカラ、防グト云フコトハ甚ダ先見ノナイ話デアルト私ハ確信スル、今日此病毒ノ未ダ激シカラザル時期ニ於テ、既ニ幸ヒ著手シタノニアリマスカラ、今始ク當業者ノ我慢ヲ望ミ、ヤハリ、立法者ノ方デモ我慢ヲ致シテ此法ノ實行ヲ徐ロニ見ルガ最モ得策デアルト確信致シマス、其故ニ一言反対ノ理由ヲ述ベテ置キマス

○議長（松田正久君） 御議論がナケレバ 本案ノ一讀會ヲ開クヤ否ヤノ可否ヲ詰ヒ

○政府委員和田彦次郎君 議長

○議長（松田正久君） 政府委員和田彦次郎君

〔政府委員和田彦次郎君登壇〕

○政府委員和田彦次郎君 本案ニ對シマシテ、政府ノ意思ヲ一言致シテ置カウト考ヘマス、過日來委員會ニ於キマシテ、本案提出ノ御理由ヲ伺ヒマシタコトガ、大體ニ於テ我國ノ畜産ノ改良發達ヲ期セントスルノ趣意デアル、ト云フ提出者ノ御意志アゴザイマシタ故ニ、政府ハ悅シテ本案ニ對シマシテハ、十分ニ質問ニ答ヘ、且政府ノ意見ヲ陳述致シタノアゴザイマスル、殊ニ唯今申シヤウナ趣意ニ依テ本案ヲ提出セラレタノアルナラバ、飽迄譲ルベキハ譲リ互ニ協定致スベキハ努メテ協定ヲ遂ゲマシテ、茲ニ反對ノ意見ヲ述ブルコトノナキヤウニト云フ意ヲ以チマシテ、殊ニ之がタメニハ再三協議會的ノモノヲ設ケマシテ、互ニ懇話意見ヲ交換ヲ致シタノアゴザイマス、然ルニ不幸ニ致シマシテ茲ニ反對ノ意見ヲ述ベナケレバナラヌコトニナシタノハ、頗ル遺憾ト致ス點アゴザイマスケレドモ、如何セン、唯今委員長ヨリ報告セラレタル如キコトニハ、政府ハ贊成スルコトが出ヌノミナラズ、絶對ニ反對ヲ致サナケレバナラヌノアゴザイマス、抑、現行法ガ發布ニナリマシタ歷史ヨリ申シマスレバ、明治三十一年三月一日東京ノ乳牛榷取販賣營業組合頭取牧田義雄氏外ヨリシテ、今日ノ如ク結核病ヲ放任シテ置イテ吳レテハ、乳牛ノ養殖上頗ル弊害ヲ來スモノアリ、故ニ政府ハ宜シク速ニ此取締法ヲ設ケテ賞ヒタク、斯ウニノ建議が出マシタノアリマス、續イテ明治三十一年十月二十四日第十一回與羽六縣畜產聯合會會長岩崎正義君ガ、此會ヲ代表ヒラレテ、現今ノ如ク畜牛結核蔓延致シテハ、將來我國ノ畜牛ノ繁盛ヲ圖リ、改良ヲナス上ニ頗ル憂フベキモノガアル、故ニ速ニ是が豫防制定ヲナセト云フコトノ建議が出タノアゴザイマス、亞イデ明治三十一年二月二十六日大日本畜產業會會頭前田正名君ヨリ、等シク此結核病ノコトニ付イテ、相當ノ規則ヲ設ケテ速ニ此保管取締ヲナサケレバナラス、是非此事ヲ決行スルヤウニト云フ建議が出タノアゴザイマス、續イテ明治三十年一月牧牛保護請願ナルモノガ、大阪府ニ於キマシテ此席ニ列シテ居ラレマスル、東尾平太郎君外一万二千四百五十人ノ連署ヲ以テ請願ニナシタノアゴザイマス、亞イデ大阪府田中助左衛門君外一万六千二百二十五人ノ連署ヲ以テ請願ガアツタノアリマス、亞イデ兵庫縣旗谷與三郎君外二千九百八人ノ連署ヲ以テ請願シタノアリマス、亞イデ石川縣ノ水戸太郎外二百三人ヨリ請願セラレタノアゴザイマス、斯ノ如ク數万ノ人ガ、現在ノ如ク畜牛結核ノ有様ヲ拋棄シテ置クコトハ、當局者ノ爲スベカラザルコトアル、日本將來ノ畜產ノ改良發達ヲ期スルガタメニ、速ニ之が取締法ヲ設ケヨト云フコトニ賛イテ、斯ノ如ク請願ガアツテ、現ニ其請願書ハ本院ニ出テ、本衆議院ニ於テハ報告ニナシテ居ルノアリ、斯様ナ趣意ニ依シテ、民間ニハ最モ切望セラレタノアゴザイマス、其當時ノ著シキ請願書中ノ文句ヲ茲ニ朗讀致シマス（「無用々々ト呼フ者アリ」）クダ／＼シイカラヨシマセウ、ヨ

シマセウガ、斯ノ如ギ履歴ニ係テ政府ハ斯様ナ案ヲ提出致シマシタ（「廢止ニアラズ、改正ナリ」）ト呼フ者アリ）マア御聽キナサイ、政府ハ斯ウ云フ請願ニ基キ、當時實況ニ照シ瞬間セヨヲ捨置クベキモノナシ、將來ノタメ相當ノ取締手續ヲナスベキ責任アリト信ジテ、政府ハ之ニ對スル案ヲ具ヘ、本院ノ協賛ヲ求メテ現行法ヲ發布致シタノアゴザイマス、然ルニテ斯今回ノ改正法ヲ一見致シマスルノニ、現行法ニアルトコロノ重症ト云フ、最モ重イ結核病タケラ撰殺スル分ハ宣イガ、輕症若クハシキトコロノ疑症ノ牛ハ、健康牛同様ニ拋棄シテ自由ニ賣買セシメヨ、斯ウ云フコトニ付イテハ少シモ監督ノ必要ハナイト云フ趣意ニ外ナラヌノアゴザイマス、諸君、重症牛ハ撲殺致シマスルカラ宜シウゴサ

イマスルガ、將ニ重症トナラントシ、健康牛ヨリ確カニ病疫ノアルトコロノモノヲ以テ、之ヲ放任シテ是ア満足スルト云フコトハ、吾ニ于テハドウシテモ出來ヌノアゴザイマス、若シ地ヲ變ヘテ政府が本題ニナシテ居ルガ如キ改正案ヲ茲ニ提出致シマシタナラバ、「贊成スル」又「直ニ贊成スル」ト呼フ者アリ）政府ハ無定期見ニシテ何ヲ以テ此輕症牛ヲ取締ルカ、輕症牛ハ取リモ直サズ、重症牛ノ候補者アハナイカ（「ノウ／＼」ト呼フ者アリ）全ク輕症牛ヨリ重症牛ニナルノアゴザリマス、其當時コワ重症アテイケレドモ、此輕症牛ヲモニテ、置キマスレバ、必ズ重症牛ニナルノ處ガアルノアリ、故ニ之ヲ取締ラカケレバナルノテゴザリマス、又此提出者ノ一人等ノ御説ヲ承ハリマスルトデス、輕症牛ニ向シテ輕症牛ハ取リモ、其牛ヲ賣リ、其價ノ高クナルト云フ、一方ニ喜ブベキコトガアルトコロノ印ヲ付ケルカラ、價が廉クナッテ困ル、成程御困リデアラウト私モ思フ、併ナカラデス、検査ヲ致シタ結果、健康牛アアルト云フコトノ證狀ヲ與ヘルノアゴザイマス、（簡ニ安心シテ其牛ヲ求メ、其牛ヲ賣リ、其價ノ高クナルト云フ、一方ニ喜ブベキコトガアルト云フコトハ、マルデ御説ニナラヌノアリ、此數ヲ申シマスレバ、先刻モ述ヘタルガ如ク、十九万何頭ト云フモノガ、確カニ健康牛ト云フトコロノ讀ラ與ヘルノアゴザイマス、（簡單々々ト呼フ者アリ）其中ニ就イテ五百數頭ト云フモノガ、重症牛アラバ止マツテ、其他ハ輕症牛或ハ疑アル所ノモノト云フノアリテ、或一部分ノモノハ、此印シヲ付ケタガタメニ價ハ減ズルト云フコトデ、不幸ヲ被ルカハ知リマセヌケレドモ、大部分ニ當ツタモノハ、健康牛ト云フ證明ヲ受クルガタメニ、大ニ茲ニ喜ブコトガナケレバナラヌノアゴザイマス、又此價ガ下ガル困ルト云フコトヲ以テ、此法律ヲ改正スルト云フコトハ、意外ニ考ヘルノアラル地竝ニ居ルノアゴザイマス、故ニ將來十分ニ發達ラ來シ、十分ノ改良ヲ爲サンケレバナルナラムトキニ方シテ、最モ恐ルベキ此結核牛ノ豫防法ヲ、斯ノ如ク改正スルト云フガ如キシ其事ヲ廢シタナラバ、此取締ト云フモノハ、名ノミニシテ實ノナイモノアアルト考ヘルノアゴザイマス、（「ヒヤ／＼」ト呼フ者アリ）御承知ノ通ニ、今日ノ日本ノ畜產社會ハ、マダ幼稚ナル地竝ニ居ルノアゴザイマス、故ニ將來十分ニ發達ラ來シ、十分ノ改良ヲ爲サンケレバナラムトキニ方シテ、最モ恐ルベキ此結核牛ノ豫防法ヲ、斯ノ如ク改正スルト云フガ如キハ、政府ハ畜產ノ將來ノタメニ如何トモ之ニ同意スルコトガ出來ヌノアゴザイマスル、幸ニ清聽ヲ煩ハシタイト思ヒマス、全體此畜牛結核病取締法ノ現行法ト云フモノハ、一定ニ實施サレテ居ラヌノアゴザイマス、何故此國ノ法律が一定ニ實施サレテ居ラヌカト云フ

〔關口安太郎君登壇〕

○關口安太郎君（三百十七番） 本員ハ極ク簡單ニ此委員長ノ報告ヲ維持スル理由ヲ説明シタイト思ヒマスガ、此修正法が最モ此事實ニ違シ、事實上頗ル現行法ガ行ハレテ居ナイ事項ヲ修正スルモノアゴザリマスが、多少數言ヲ費サナケレバナリマセヌカラ、暫ク御

コトハ、頗ル諸君が御聽キニナリマシタ上ニ付イテハ、ドウ云フ譯カト云フ御疑モザイマセウガ、是ハ斯ウ云フ事情カラ、現行法律が全國均一ニ行ハレテ居ナイ、或縣ニ於テハ、警察部ガ主ニナツテ此法律ヲ行ヒ、或縣ニ於テハ勸業課、即チ畜產ト云フ頗ヲ以テ此法律ヲ行フ、所謂四課が主ニナツテ、此法律ヲ行フ、斯ウ云フニツノ場合ヲ生ズルノテゴザイマス、ソコデ此警察が主ニナツテ法律ヲ執行致シマスル場合ニハ、唯法律ノ條項ニノミ依テ、一ツモ此畜產ト云フ常識ヲ以テ執行致シマセヌガタメニ、唯法律ノ取締ノミ嚴ニシテ置イテ、法律ヲ執行シタ結果ニ付イテハ、少シモ考ヲ持タナイ、然ルニ第四課が主ニナツテ此法律ヲ行フ場合ニハ、畜產ト云フコトノ結果ヲ考ヘルガ故ニ、常識ヲ以テ此法律ヲ行ヒマスルが故ニ、其手心タルヤ、畜產ノ發達ヲ阻礙セヌ程度ニ於テノミ、此法律ヲ行バ往キマスルガ故ニ、既ニモウ一定シタ執行ガ出來ナインアリマス、是ガ現行法ニ於テ現實行シテ居ル、此現行法ノ根柢ガ果シテ公衆衛生ニ依ヅテ行シテ居ルカ、或ハ畜牛衛生ヲ主ニシテ行シテ居ルカト云フ法律ノ目的ガ、全體不明確ニアル、是ハ諸君が大ニ實際上御考ヲ願ヒタク點ニアリマス、ソコデ第二ニ此現行法ニ於キマスルトコロノ「ツベルクリン」液ト云フモノガ、果シテ牛ノ結核ヲ判定スルニハ、絕對的ノ材料アルカ否ヤト云フ問題ニアリマス、此「ツベルクリン」注射ニ依ヅテ、重症、輕症、疑症ト云フヤウナモノ現行法ハ分ケマスガ、此「ツベルクリン」液ト云フモノガ、實際カラ見マスルト云フト、参考ノ藥液ニハナリマセウ参考ノ藥液ニハナリマセウガ、併ナガラ全體ノ此「ツベルクリン」注射ニ依ヅテ、溫度ノ結果ヲ見テ、サウシテ判定スルト云フコトハ、頗ル信用ヲ措クコトガ出來ナインアリマス、故ニ實際ノ一二ノ例ヲ舉ゲテ見マスレバ、假リニ此「ツベルクリン」ト云フモノガ、絕對ニ有要アル材料ト致シマシテモ、尙此症ト云フモノヲ法律ニ區別スル必要ノナイト云フコトヲ確信スルモノハ、政府が所來ナイ材料ヲ以テ此現行法ヲ嚴格ニ執行シタウト云フヤウナコトハ、頗ル間違タルコト、思フ況シヤ此「ツベルクリン」ナルモノハ、根柢ニ於テ絕對ニ有要アル材料ト致シマシテモ、尙此ソレカラ第三ニ望月君が最モ熱心ニ説明サレタコロノ論ニアリマスガ、私ハ此輕症、疑症ト云フモノヲ法律ニ區別スル必要ノナイト云フコトヲ確信スルモノアル、ナゼニヲ確信スルト云フノニ、成程唯今望月君ノ議論及政府委員ノ説明ニ依リマスルト云フト、牛ニ健康、疑症、輕症、重症ト學者ハ此四ツノ區別ヲ附ケマスル、附ケマスルガ皆此輕症、疑症ト云フモノヲドウ云フ風ニ致スカト云ヘバ、唯今政府委員ノ説明シタ通り、望月君ノ辯論シダ通りニ隔離シテ遮交サセテ置ク、他ノ健康牛ト隔離シテ遮交シロト云フコトニナツテ居リマス、ケレドモ諸君、此重症牛、疑症牛ト云フモノハ畜殖モ許シ、又乳ヲ權ルコトモ許シテルノデアル、畜殖ト權乳ト總テ健康牛ト同様ナル利用ヲ許シテ、隔離遮交スルト云フコトヲ、獨リ法律ニ極メテアリマスガ、隔離遮交ト云フコトハ、到底出來ナイコトナ、此利用ヲ禁ズレバイヤ知ラズ、此利用ヲサセシ、アル間ニ於テ、隔離遮交スルコトモ許シテルノデアル、然ラバ何故ニ私ハ之ヲ離スカト云フ議論ヲスルカト云ヘバ、私ハ政府ニ向テ問ハントスルノデアル、輕症牛ト云フモノハ學說ニ於テモ、確ニ結核病——既ニ結核病ニナツテ居ルモノニアリマセウ、アリマセウケレドモ、何故ニ政府ハ此

結核牛ヲ撲殺スル部類ニ入レナインデアルカ、若シ此法律ノ絕對ニ行ハントスルナラバ、所謂此法律ノ目的ヲ全ク達セントスルナラバ、結核牛ヲ撲殺スルが當然デアル、然ルニ何故ニ此結核牛ヲ撲殺セヌノデアルカ、思フニ此國家ガ結核牛トシテ、撲殺スル程度ニ至ラヌモノト認メタニ相違ナイ、然ラバ此結核疑牛及結核牛ナルモノヲ、他ノモノト混淆セサセテ置イテ、サウシテ一般ノ利用ヲ許シツ、尙法律ニ於テ、此結核疑症ト云フモノニ印シダケラ耳ニ附ケナケレバナラムト云フ理由ハ吾ミノ不明ニシテ發見シ得ナイ事實デアリマス、ソレデ又私共ノ考ヘルノニ、立法上カラ或ハ此現行ノ取締法ト云フモノハ、學者ノ說ヲ餘リ露骨ニ規定シ過ギテ居リハセヌカト思フ、全體此輕症、疑症ト云フモノマデ、チャント印シヲ付ケテ、サウシテ法律ニ規定シテ隔離サセルトカ、遮交サセルトカ云フヤウナコトハ法律上實行ノ出來ル仕事デゴザイマセウカ、本員等ノ考ニ依リマスルト、此實際ニ於キマシテ、斷シテ此輕症、疑症ト云フモノヲ、隔離遮交スルコトハ出來ナイ、デ又現ニ隔離遮交シテナイ、唯法律三於テ規定シタルガタメニ、他ノ健康牛ト混リツ、アルモノヲ捕ヘテ、耳ノミニ「マータ」ヲ付ケルト云フコトハ、法律ノ趣意デハ決シテナカラウト思フ、併ナガラ半面ニ於テハ、其印シヲ附ケラレタメニ、當業者ノ困難迷惑ト云フモノハ、一通リナラヌモノデアリマスル、諸君ハ或ハ斯ウ云フ問題ニ付イテハ、「簡単タ々」と呼フ者アリリ其事實ガ或ハ能ク御分リニラヌ點ガアルカ知レマセヌガ、隨分東京ノ眞中ニ於テ、輕症若クハ疑症ト云フヤウナ、臍胱ナ牛がナイト云フコトヲ以テ、誇フテ居ル營業者デモ、其内部ヲ見ルト此「ツベルクリン」ノ免疫注射ヲ、或程度マテ注射シテ、サウシテ検査ヲ受ケル、サウスレバ、決シテ反應ガナイ、併ナガラ其反應ガナイト云フコトハ、決シテ結核ノナイト云フコトニハナラヌ、結核ガアツモ反應ガナイト云フコトハ、幾ラデモ出來ルノデアル、免疫注射ヲ一頭ノ牛ニ二十回モ「ツベルクリン」ヲ注射シテ御覽ナサイ、決シテ反應ガ起ラヌ、併ナガラ反應ノ起ラヌ其モノガ、結核ノ無イ有ルト云フ區別ニハナラヌノデアル、願クバ委員長報告通り御賛成アランコトヲ希望致シマス

○議長(松田正久君) 山根正次君

○山根正次君(三百四十八番) 私ハ簡單ニ本案ニ付イテ反対ノ意見ヲ述べマス
牛ノ結核ガ、人間ノ結核ノ徵菌ト異ナルト云フコトハ、マダ極シテ居ラヌ今日ニ於テ、折
角出タトコロノ法律ヲ、輕クスルト云フヤウナコトハ、甚ダ危險ト思ヒマスル、之がタメ
ニ此病氣ヲ蔓延サセルト云フヤウナコトニナリマシテハ、甚ダ危險ト感ジマス、ソレデナク
トモ日本ノ帝國內ニハ、肺病ノ殖エルコトハ非常デアリマスル(「ソレハ牛乳ノタメダ」ト
呼フ者アリ)ソレデアリマスルガ故ニ、既ニ折角出來テ居ル法律ヲ、今日改メルト云フコ
トハイケナイ、「コッホ」ト云フ人ハ千八百幾年カニ於テ、此徵菌ノ違フト云フコトヲ唱ヘタ
ノデアリマス、北里氏モ之ニ贊成シテ居リマスケレドモ、マダ確ニサウト極シテ居ラヌヤウデ
アリマス、又今日ハ痘苗製造所ニ於テ、彼ノ犢牛ニ結核ヲスルト「ツベルクリン」ヲ用井テ
居ルノト云フモノハ、人間ノ結核トマダ同ジコトデアラウト云フ疑ガアルガ故ニ、尙注射ヲ
シテ居ルモノト、私ハ信ズルノアリマス、デアリマスルガ故ニ、私ハ本案ヲ贊成スルコトハ出
來ナイ(「討論終結討論終結」ト呼フ者アリ)私ハマダ言フ權利ヲ持シテ居ルノアリ、併
ナガラ私ハ此際政府ニ望ムノハ、隨分獸醫ナドノ碌々分ラヌモノガ、或ハ注射ヲスルト云
フヤウナコトガアルヤウデスカラ、此際ニ於テ、十分獸醫ナドハ精選ヲシテ扱ハシタナラバ、
別段ノ不都合ハナイト私ハ恩フノアリマス、是ダケラバ

〔討論終結討論終結ト呼フ者多シ〕
○議長(松田正久君) 本案ノ一讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案ノ二讀會ヲ開クベシト云フ諸君ノ起立ヲ望ミマス

起立者

多數

○議長(松田正久君) 多數ト認メマス

〔少數又「多數」ト呼フ者アリ〕

○恵松隆慶君(百五十九番) 既ニ多數ト極マリマシテ以上ハ、直チニ一讀會ヲ開イテ、斯ウ云フ問題ハ早ク片附ケテシマヘレンコトヲ希望致シマス

○議長(松田正久君)

起立ノ數ニ付イテ異議ノ申立ガアリマスカ、唯少數ト云フ聲バカリテアリマスカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 異議ノ申立ガナケレバ、直チニ一讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、直ニ一本案ノ一讀會ヲ開クベシト云フ諸君ノ起立ヲ望ミマス

起立者

多數

○議長(松田正久君) 多數アリマスカラ、直ニ一讀會ヲ開キマス、全部ヲ議題ニ供シマス

畜牛結核豫防法中改正法律案

第二讀會

農會法改正法律案

確定議

〔委員長報告通リ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 委員長報告通御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 然ラバ委員長報告通決シマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 直チニ三讀會ヲ開キテ確定シテシマフガ宜シウゴザイマス、斯ウ云フ牛ノヤウナ代物ハ……

○議長(松田正久君) 直チニ三讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 直チニ三讀會ヲ開キ全部ヲ討議ニ附シマス

第三讀會

農會法改正法律案

確定議

〔委員長報告通リ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 委員長報告通御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 然ラバ委員長報告通決シマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 次ノ日程第十九カラ二十二マデハ一括シテ議題トシ、提出者ノ説明ヲ略シ、各案毎ニ九名ノ委員ヲ議長ニ於テ指名スルコトニ願ヒタイ

〔異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ其通致シマス

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ、本案ハ委員長報告通決定致シマス——茲ニ

諸君ニ御詣り致シマスカ、國籍法中改正法律案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトアリマスガ、許可シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ許可スルコトニ致シマス——次ハ議事日程十

八、農會法改正法律案ノ第一讀會ヲ繼續シ、委員長ヨリ報告ヲ致シマス——井上甚

太郎君

第十八 農會法改正法律案(藤金作君外 第一讀會ノ續(委員長))

(井上甚太郎君登壇)

○井上甚太郎君(五十一番) 農會法案ノ委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、本案ハ

屢々委員會ヲ開キマシテ、特ニ昨日ハ午前後共ニ開キマシテ、サウシテ原案ニ修正ヲ加ヘマシタ、大ナルモノノ申上ゲマスト、第四條ニ於テ「山林」ト云フ文字ヲ削リマシタ、第八條ノ國稅徵收法同様ニ、會員カラ會費ヲ取立テルコトハ削除致シマシタ、其他改正致シマシタコトハ、御手許ニ廻シテ居リマスガ、本日又字句ノ修正ダケヲ政府ニ依頼致シマシタコロガ、政府カラ今日此改正案が出來テ來マンダカラ、幾ラ簡単デモ是ダケハ申上ゲナクテハ分ラヌ、ソレハチヨット讀ミマスト、「第五條ノ同意ヲ得會則ヲ定メ町村ニ於テ「行政官廳ハ郡長郡農會及市農會ニアリテハ」ト云フ是ダケノ文字ヲ加ヘ、又十二條ニ於テ「直シマスノデス、之ハ溝場一致テ決シ、政府モ同意デアリマスカラ、委員會決議通御賛成アランコトヲ望ミマス」

○恵松隆慶君(百五十九番) 本會ハ讀會ヲ省略シテ確定セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々ノ聲起ル〕

○議長(松田正久君) 讀會省略ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ讀會ヲ省略シ、全部ヲ議題ニ供シマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 本會ハ讀會ヲ省略シテ確定セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々ノ聲起ル〕

○議長(松田正久君) 賛成ニ御異議アリマセヌカ

〔贊成ノ聲起ル〕

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ委員會ノ修正通確定致シマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 次ノ日程第十九カラ二十二マデハ一括シテ議題トシ、各案毎ニ九名ノ委員ヲ議長ガ指名スルコトニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ其通致シマス

○議長(松田正久君) 商法中改正法律案(神崎東藏君外八名提出) 第一讀會

商法中改正法律案

商法中左ノ通改正ス

第四百二十八條第一項中「其相續人又ハ親族」ノ下ニ「若クハ被保險者」ノ承諾ヲ

得タル者ヲ加フ

同條第二項ヲ削ル

第二十 郡制中改正法律案(板倉中君外一名提出) 第一讀會

郡制中左ノ通改正ス

第六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

郡内ニ住居スル年齢満二十五年以上ノ男子ニシテ且其ノ郡内ニ於テ一年

以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ被選權ヲ有ス

同條第四項ヲ削ル
同條第六項中「被選權ヲ有セス」ノ下ニ「但シ第一號乃至第五號ニ該當スル者ニシテ「ヲ加フ」

同條第六項第五號ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ

(福井三郎君登壇)

第一讀會ノ續(委員長)

○議長(松田正久君) 御異議がナケレバ日程ヲ變更シ、居留民團法案ノ讀事ヲ開クコトニ致シマス——福井三郎君が委員長ニ代シテ報告ヲ致シマス

居留民團法案(政府提出)

(委員長)

五 禁治產者及準禁治產者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケテ確定シタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

刹奪公權者及停止公權者

七 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者
八 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者

第二十一 府縣制中改正法律案(高橋安爾君外一名 提出) 第一讀會

府縣制中改正法律案

(福井三郎君登壇)

(委員長)

府縣制中左ノ通改正ス
第六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

府縣内ニ住居スル年齢満二十五年以上ノ男子ニシテ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ム者ハ府縣會議員ノ被選權ヲ有ス

同條第四項ヲ削ル

同條第六項中「被選舉權ヲ有セス」ノ下ニ「但シ第一號乃至第四號ニ該當スル者ニシテ「ヲ加フ」

同條第六項第四號ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ

五 禁治產者及準禁治產者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケテ確定シタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

刹奪公權者及停止公權者

七 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者
八 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者

五 禁治產者及準禁治產者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケテ確定シタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

刹奪公權者及停止公權者

七 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者
八 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者

五 禁治產者及準禁治產者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケテ確定シタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

刹奪公權者及停止公權者

七 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者
八 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者

五 禁治產者及準禁治產者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケテ確定シタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

刹奪公權者及停止公權者

七 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者
八 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者

五 禁治產者及準禁治產者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケテ確定シタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

刹奪公權者及停止公權者

七 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者
八 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルマテノ者

五 禁治產者及準禁治產者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケテ確定シタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

刹奪公權者及停止公權者

五 禁治產者及準禁治產者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケテ確定シタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

刹奪公權者及停止公權者

(議事日程第二十一乃至第二十三ノ件 居留民團法案 第一讀會ノ續 雖定議)

決定致シマシテゴザイマス、ドゥア諸君ノ御賛成ヲ請ヒマス
〔「簡ニシテ盡セリ」〕委員長報告通り異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通、本案ヲ採用スルコトニ御異議ハアリマセス
カ
〔「異議ナシト呼フ者アリ」〕

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ 本案採用ニ決シマス、議事日程第二十四、
國本培養ニ關スル建議案ヲ討議ニ付シマス——中倉万次郎君

第二十四 國本培養ニ關スル建議案(恵松隆慶君)(委員長報告) 外四十二名提出)

〔中倉万次郎君登壇〕

○中倉万次郎君(五十六番) 國本培養ニ關スル建議案ノ委員會ノ經過及結果ヲ
御報告致シマス、本案ニ付キマシテハ、六回ノ委員會ヲ開キマシテ、大體ニ付キマシテ
ハ、一人ノ異論ゼナインゴザイマシタケレドモ、此問題ハ十分研究致シマシテ、修正ヲ
加フル事項モアルト云フ考テ、委員會ハ親切ニ調査ヲ致シマシタ、其結果御手許ニ
御廻シテアル通ノ修正ヲ加ヘマシテ、決議致シマシタノゴザイマス、テ是ハ少シ長クナリ
マス、朗讀ハ省キマスガ、(恵松隆慶君)此案ハ國ヲ富マスノ案テゴザイマス、兵ハ強シ國
ハ富マサナケレバナラヌノアル、ドウカ諸君御賛成ヲ請ヒマスト呼フ)之ニ對シテノ説明
モ、最早私ノ此處ア申上ゲル必要モナイト思ヒマスルカラシテ述ベマセマガ、此修正案ニ
付キマシテハ、大體ニ於テハ満場一致ヲ以テ、委員會ハ決定致シマシタ、此段御報告
致シマス

〔「異議ナシ」「採決」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通本建議案ハ採用スルコトニ御異議ハアリマセ
スカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 全會一致大多數ゴザイマスト呼フ
五、盲人保護ニ關スル建議案ヲ討議ニ付シマス——奥野市次郎君

第二十五 盲人保護ニ關スル建議案(奥野市次郎君)(委員長報告)

〔奥野市次郎君登壇〕

○奥野市次郎君(百五十四番) 盲人保護ニ關スル建議案ノ委員會ハ、昨日開會ヲ
致シマシテ、委員長理事ノ選舉ヲ終リ、引續イテ會議ヲ開クト云フコトニナリマシタノデ、
致シマシタノデアリマシタが、政府ニ於テモ此事ニ付テハ、イロイロコチラカラ承ハルコト
ニ付イテ、大抵調査中ニ屬スルノデ、明確ナル御答ヲ得ルコトハ出來テ居リマセヌ、併ナ
ガラ既ニ調ベタモノアルト云フコトデ、調ベタモノダケハ、政府カラ報告ヲ受ケタヤウナ次
第ニアリマシタが、委員會ニ於テハ、全會一致、即チ大多數ヲ以テ、缺席ノ方モゴザイ
マシタガ、此原案通ニ可決ヲ致シマシタ、此事ニ付イテハ、本員提出ノ理由ヲ先日述べ

マシタカラ、茲ニハ一言主其理由ニ言及致シマセガ、唯委員會ニ於テ建議案が通過ヲ
致シマシタカラ、滿場ノ諸君ハ一致ヲ以テ此案ノ可決ニ至ルコトニ、御賛同アリタイト思
セマス

〔「賛成々々」ト呼フ者アリ〕

○山根正次君(三百五十八番) 委員長ニチヨット御尋ね致シマス、私ハ昨日病氣ノ
タメニ能ウ出マセヌゴザイマシタが、此盲者ニ(笑聲起ル)鍼治ヲ許スコトハ、危險ハナ
イト云フコトヲ、政府委員ハ答ヘタノゴザイマスカ

○奥野市次郎君(百五十四番) 山根君ノ御質問ニ答ヘマスガ、鍼治ヲ盲者(笑聲
起ル)ニ許シテ危險がナイト云フコトヲ答ヘタカト云フ御問デスガ、政府委員ニ其邊ノコ
トモ質問致シマシタが、政府委員ハソレ等ノコトニ付イテハ此學說或ハ理論ノ推論ニ
止マルノデ、何モ決定ノ答辯ヲ得テ居ラヌノアリマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ全會一致ヲ以テドウカ……

○小澤愛次郎君(百八十六番) 委員長ニ質問ガアリマス

○奥野市次郎君(百五十四番) 自席デ答ヘマス

○小澤愛次郎君(百八十六番) 斯ウ云フ質問致スノデス、癱瘓不具者ニ或特別
ノ保護ヲ致シマシテ、社會ノ競爭場裡ニ建康者ト對等ノ競爭ヲ爲サシメヤウト云フコト
ハ、是ハ社會問題トシテ研究スヘキコトゴザイマシテ、私モ此事ニ付イテ敢テ絶對的ニ
反對ヲ致シマス者デハゴザイマセヌケレドモ、此案ノ如キモノハ、隨分攻究スベキ問題デア
ラウト思ノゾデス、反對デハゴザイマセヌ、唯前提トシテ申上ゲマス、デ此盲者——盲人ニ
按摩鍼ノ如キモノノ許可スル、是ハ隨分考ヘモノニアリマスケレドモ、併シ意見トシテハ申
サナイ、唯癱瘓不具者ノ中ニハ、獨リ盲人バカリデハナインゴアリマス、其他特別ノ保護
ヲ與ヘルト云フコトニナリマシタナラバ、隨分是マデ盲人ニハ琴ト云フヤウナモノモ致シテ
アツク、ソレモ盲人ノ専門デアツタ、然ルニ今日ノ盲人ハ必ズ琴ト云フモノニ付イテ、専門ノ
許可ヲ受ケテ居ラヌ、ヤハリ目明キガ、琴ノ師匠ヲ致シテ居ル、此等ニ付イテモ特別ノ保
護ヲ與ヘルト云フヤウナコトハ、社會問題トシテ研究スベキ問題デアルノデ、又此建議ガ
成立シテ其業ヲ營ンデ居リマス者ハ、全國ニハ何百人何千人居ルカ知リマセヌガ、其者
ハ二八ナリ五八ナリノ門弟ト云フモノヲ有シテ居ル、其者ガ之ガ廢サレテシマツタナラバ、
此建議が成立シタナラバ、必ズ其門弟ト云フモノハ離散シテシマフニ違ヒナイ、今後ニ於
テ其許可ヲ受ケルコトが出來ヌモノアルカラシテ、何ヲ苦シテ一年三年勉強シタ者ガ、
其師匠ニ就イテ勉強スルコトハナイ、必ず去ツテシマニ相違ナイ、サウンシナラバ今日營
業ヲ致シテ居リマス者ハ其門弟ニ離レラレタタメニ、今日ノ生業ト云フモノガ出來ナイ、
營業ヲスルコトが出來ナイ、所謂糊口ニ困ルト云フヤウナコトニナルノアリマス、デサウ云
フ場合ニハドウナサルカ、今日一年ナリニ二年ナリノ年季ヲ入レテ、今ヤ鍼灸術ノ試験ヲ
受ケテヤラウト云フ者ガアルニモ拘ハラズ、此建議が成立シタナラバ、其者ハ糊口ヲ失テシ
マウフ、是等ノ者ニ向シテハ如何ナル保護ヲ與ヘル考デゴザイマスカ、是ハ詰リ個人ノ生
活ノ權利、營業ノ權利ヲ奪フト云フヤウナコトニナリマスカラ、或ハ社會問題トシテハ研
究スベキ問題デアリマスカ知レマセヌガ、之ヲ衆議院テ可決致スト云フヤウナコトハ、少シ
ク考ヘモノアルダラウト云フ、本員ハ意見ヲ有シテ居リマス、是ハ建議者ニ向シテ、其善
後策ハドウ云フコトニナルカト云フコトヲ質問致シマス

○奥野市次郎君(百五十四番) 唯今ノ小澤君ノ御質問ニ答ヘマス、小澤君ノ御質問ハ初メニ琴上云フモノモ、是マテ盲人ノ殆ド事業區域ノ中三這入^タテ居^タノアルカラ、サウ云フモノハドウテアル、若シ此音曲ノ中琴ノ如キコトマテ、盲人ガ専業其業ニ當^タテ居^タ

タコトヲ、今日ノ社會ガ專業ニスル程ノ雅量ガアリ、宏懷ガアリマシタナラバ、欣^タテ致シテ宜シイト思フノデアリマス、然レドモ今日ノ社會ハ正眼者が盲人ノ區域ヲ侵害セントスル程ノ輕薄ニナッテ居ルトキデアリマスカラ、小澤君ノ如キ熱心ナル同情者ガアツテ、是等ノ道ニ御注意下サルコトハ、喜ンデ私ハ御受ヲスルノデ、若シ進^シテ參リマスレバ、サウ云

フコトニ致シタコトハ、唯私ノ此建議案が盲人保護ノ建議案ト云フノデ、他ノ癡疾者ニ及ボスコトが出來ナイノデアリマスカラ、自ラ茲ニ報告シテナイノデアリマス、若シ國家社會が此盲人ノ外ニ癡疾不具ノ者ニ對シモ、何カ相當ノ扶助ノ道カ付ケラレヤウナコトニナリマスナラバ、是モ亦考ヘナケレバナラヌノデアリマス、ソレカラ後段ノ營業權ノ云々御質問デゴザイマシタガ、是ハ建議案ニ明カニ書イテアリマス通、現在營業ヲ致シテ居ル者ハ、其業ヲ繼續セシムルノデ、少シモ其業ヲ奪フノテハゴザイマセヌ、今修業中ノ者ハドウスルカト云フコトデアレバ、修業中ノ者デ、既ニ其業ヲ卒^シヘ門戸ヲ張ルニ足ルベキ者デアレバ、師匠ノ手ヲ離レテ獨立ニ門戸ヲ開イテ營業ヲスレバ差支ナイト信ズルノデアリマス、又目下修學中ノモノデ、モウ是マテ往ケバ終業スルモノデアルト云フナラバ、成ルベク其技藝ヲ錠磐シテ、其卒業ノ期日ヲ短クシテ、其業ヲ卒^シヘサセテ、門戸ヲ張ラセル餘地ヲ與ヘルト云フコトモ出來ヤウト思フノデアリマス、要スルニ今日以後ヲ制裁スルトコロノ建議案デゴザイマスカラ、現在ノ狀態ニ於ケル營業ノ權利ノ上ニハ、少シモ害ヲ與ヘヌ積出シタノデアリマス、ケレドモサウ云フ細カナコトニ至リマシテハ、政府ノ命令若クハ法律ヲ制定スル場合ニ於テ、考慮研究致スコト、考ヘテ居リマスカラ、茲ニハ唯大體ノ建議ニ止メタノデアリマス

○議長(松田正久君) 決ヲ採リマス、委員長ノ報告通本建議案ヲ採用スルコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔「採決タク」又「異議ナシ異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 決ヲ採リマス、委員長ノ報告通本建議案ヲ採用スルコトニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(松田正久君) 御異議がナケレバ、本案ハ採用サレマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 日程二十六二十七ハ「括シテ議題トナシ、提出者ノ理由ハ略シテ、各案每ニ九名ノ委員ヲ議長指名ナランコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 第二十六第二十七ノ日程ハ、一括シテ議題ニ供スルト云フ、動議ニ賛成ガアリマスカ

〔「異議ナシ異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議がナケレバ、先ダ第二十六、新潟築港調査ニ關スル御議案ヲ討議ニ付シマス、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

右建議ス

第二十六

新潟築港調査ニ關スル建議案(丸山嵯峨一郎君外十一
名提出)

政府ハ新潟港ノ築港ニ關シテ相當ノ技術ヲ派遣シ之カ經營ニ要スル諸般ノ
調査ヲ遂ケラレムコトヲ望ム

○恵松隆慶君(百五十九番) 九名ノ委員議長指名

○議長(松田正久君) 議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレシテ、其通決定致シマス、第二十七高等水產教育機關設置ニ關スル建議案ヲ討議ニ附シマス、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

第二十七 高等水產教育機關設置ニ關スル建議案(井上甚太郎君
外二名提出)

我カ國勢ハ南北ニ蜿蜒シ沿岸甚曲折シテ海岸線ハ優ニ七千里ヲ超ニ故ニ之ヲ水產國ニシテ海岸線ノ最長キ那、瑞二國ノ一萬五千哩、英國ノ六千二百哩、露國ノ五千五百哩ニ比スレハ遙ニ長大ナリトス而モ四周ヲ環流スル暖寒ノ二海流ハ其ノ調和宜シキヲ得ルヲ以テ水族ノ分布ハ頗ル普通ニシテ語ノ種類數量ノ段富ナルニ於テハ北方ニ偏倚スル歐米諸國ト日ヲ同フシテ語ルヘカラサルナリ

斯ノ如ク我カ國ハ水產國トシテ列國ニ比スルニ正ニ優勝ノ形勢ヲ占ム然ルニ其ノ漁獲收入額ハ五十五萬六千二百三十八噸ニ過キスシテ沿岸一里ノ收入トスレハ七十九噸トナリ漁夫一人ノ所得トスレハ僅ニ六噸ニ過キス之ヲ金額ニシテ一人六十六圓餘トナリ米國ノ六百三十五圓、英國ノ四百八十九圓等ニ比スレハ遙ニ其ノ下班ニ列ス我カ國ハ地勢ノ利アリ尙此ノ劣敗ノ位置ニアルハ何ヤ乃チ水產ノ經營ニ關スル諸般ノ設置ハ未タ充實セサルニ依ルノミナラス之ヲ活躍セシムルノ智能ニ於テ匱乏スル所アルニ依ラスムハアラス是ヲ以テ將來水產ノ振興ヲ期シ霸ヲ列國ト爭フニ當リテハ先ツ這般智識ノ開發ヲ謀ラサルヘカラス況ヤ目曉ノ裡戰後ノ經營トシテ北方亞露ニ於ケル斯業ノ更ニ擴張スヘキアリ南方清韓南洋諸島ニ於テモ亦之カ發展ヲ期セサルヘカラサルモノアルニ於テオヤ此ノ時ニ方リ斯業ノ根元タル學術ヲ研鑽シ天與ノ恩惠ニ酬ユルハ我カ國將來ノ勃興ニ對シテ一日モ等閑ニ附スヘカラサルナリ

歐米各國ニ於テハ夙ニ水產ノ學術的研究ヲ經タルモノ多ク其ノ成績ノ既ニ斯業ヲ補益セルモノ尠シトセス此等ノ結果ハ彼我各其ノ水理水族ヲ異ニセルヨリ直ニ以テ我カ國ニ適用シ得ヘキモノニアラス之ヲ以テ我カ環海ノ狀況ハ我カ獨立ノ研究ヲ待チテ後始メテ闡明シ得ラルヘキナリスノ如キハ到底高等教育ニ期待スルニアラスムハ能ハス其ノ機關ニ依テ養成セラレタル人材ニシテ始メテ水產振興ノ中樞トナルコトヲ得ヘシ我カ國ハ曩ニ農業モノニ及ヒ秩序整然主義一貫セルヲ以テ其ノ成績ノ佳良ニシテ當事者ニ及ホセル效益ノ偉大ナル中外ノ齊シク認ムル所ナリ然ルニ水產教育ニ就テハ毫モ這般ノ制度ナキヲ以テ今日ニ至ル迄美績ヲ舉ケ得サルノ憾也カラス然レトモ今日ト雖農業教育等ノ跡ニ鑑ミ先ツ高等教育機關ヲ設立シ學理ノ闡明ニ努ムレハ水產業ノ隆昌ハ決シテ歐米諸國ニ比シテ遜色ナキニ至ラムコ

